

令和 8 年度 岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）

図 面 リ ス ト		
図面番号	図 面 名 称	縮 尺
M-00	表紙 ・ 図面リスト	――
M-01	岡山市建築設備工事（機械）仕様書	――
M-02	便所平面詳細図（床湿式洋式化） 2 階以上階（ハ' タン 1 , ハ' タン 2 ）	1 : 20
M-03	便所平面詳細図（床湿式洋式化） 2 階以上階（ハ' タン 3 , ハ' タン 4 ）	1 : 20
M-04	便所平面詳細図（床湿式洋式化） 1 階部改修（ハ' タン 5 , ハ' タン 6 ）	1 : 20
M-05	便所平面詳細図（床湿式洋式化） 2 階部改修（ハ' タン 7 , ハ' タン 8 ）	1 : 20
M-06	便所平面詳細図（床湿式洋式化） 屋外便所（ハ' タン 9 , ハ' タン 1 0 ）	1 : 20
M-07	岡山市域図（光南台中学校、甲浦小学校、小串小学校）	1 : 250000
M-08	配置図（光南台中学校）	1 : 500
M-09	配置図（甲浦小学校）	1 : 500
M-10	付近見取図、配置図（小串小学校）	1 : 2500, 500
M-11		
M-12		
M-13		
M-14		
M-15		
M-16		
M-17		
M-18		
M-19		
M-20		

工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）				No.			
図面名	表紙・図面リスト			縮尺	A1 - A3 -	M-00		
岡山市	都市整備局	住宅・建設部	公共建築課	令和 8 年 3 月				
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図	

岡山市建築設備工事（機械）仕様書

I 工 事 概 要

- 1 工 事 場 所
- 2 建 物 概 要

岡山市南区魚渚390番地ほか

建 物 名 称	構 造	階 数	延べ面積 (㎡)	消防法令別表 1	備 考
光南台中学校	鉄筋コンクリート造	3階	2,434	(7)	
甲渚小学校	鉄筋コンクリート造	4階	3,856	(7)	
小車小学校	鉄筋コンクリート造	2階	913	(7)	

- 3 工 事 種 目 (○印のついたものを適用する)

工事種目	工 事 種 別				
	建 物 別	建 物			
・ 衛生器具設備	○				
・ 給水設備	○				
・ 排水設備	○				
・ 給湯設備					
・ ろ過循環設備					
・ 消火設備					
・ ガス設備					
・ 空気調和設備					
・ 冷暖房設備					
・ 換気設備					
・ 自動制御設備					
・ 厨房器具設備					

II 工 事 仕 様

- 1 共通仕様

同章及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁庁舎精修部監修の公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）最新版（以下「標準仕様書」という）及び公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）最新版及び公共建築設備工事標準仕様書（機械設備工事編）最新版による。

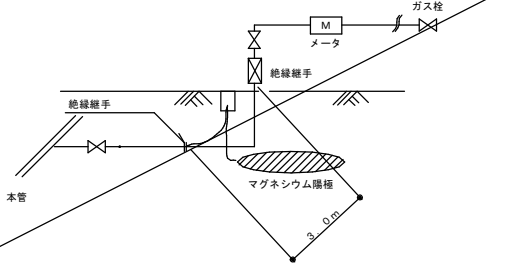
- 2 特記仕様

- 1) 適用項目番号に○印のついたものを適用する。
- 2) 特記事項のうち選択する事項は○印のついたものを適用する。ただし○印のない場合は※印を適用する。

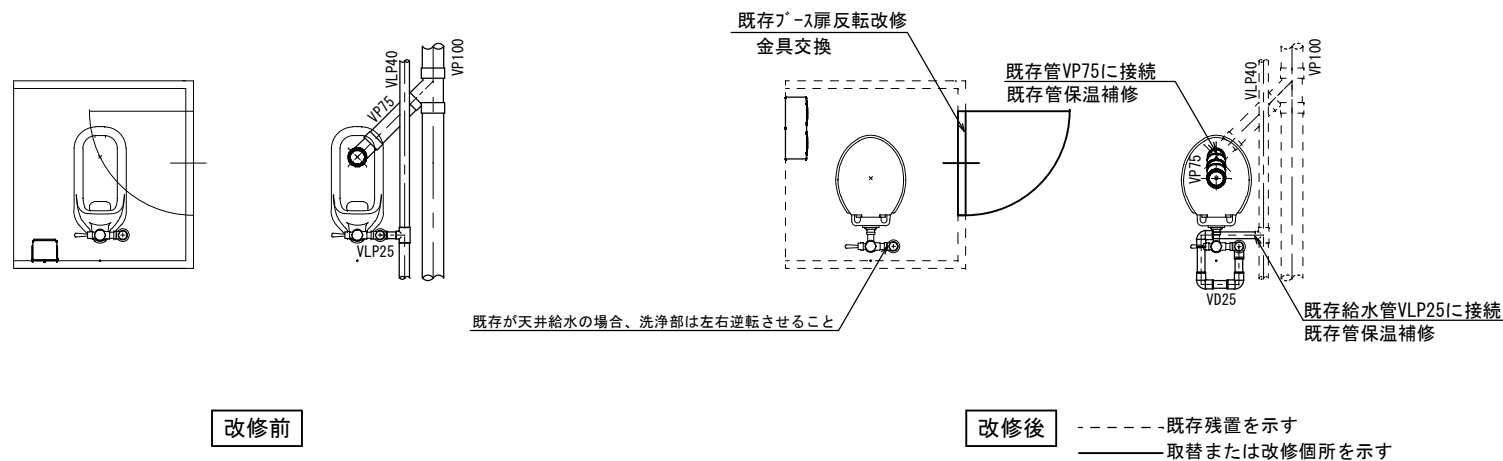
	通 用	項 目	特 記 事 項
一 般 共 通 事 項	①	機 材	岡山市公共建築機器材料等指定名簿に規定するものとし、同等品とする場合は監督員の承認を要する。 図示する品番・寸法・姿型及び形状は参考であり、製品及び製造所を指定するものではない。 また、図示する形状及び配管などの取出し位置により、特定製造業者の製品を指示、限定しない。 「面等」の環境物品等の製造の進捗等に関する法律（グリーン購入法）に規定される特定調達物品に該当する機材を使用する場合は、その判断基準、配慮事項を満たすものとする。
	2	主任技術者等の資格	※ 資格の区分 Ⅰ（級管工事施工管理技術）Ⅱ（級管工事施工管理技術）・適用しない
	③	工事用力、水、その他	本工事に必要な工事用力、水及び搬手機等の費用はすべて受注者の負担とする。
	4	技 能 の 通 用	・ 配管施工（建築配管作業）・熱熱線施工・冷空空調和機器施工・建築板金技能士
	5	工 事 用 仮 設	※ 関連工事の関係者及び設置する足場、作業構台の類は無償で使用できる。
	6	土 工 事 (埋設配管は23)による)	イ) 埋め戻し土は ・ 山砂の類 ・ 根切り土の中より良質土 ロ) 残土処分は ※ 構外に搬出し適切に処理 ※ As.Osは適法に処理すること ・ 構内敷均し ・ 構内の指示ある場所に堆積
	⑦	発 生 材 の 処 理	引渡しを要するもの ※ なし ・ あり（ ・ 機器類 ・ 配管材料 ・ ）
	8	説 明 板	監督員と協議の上、設備機器類（ボイラ、冷凍機、各種ポンプ、空気調和機など）及び一連の装置などの取り扱い要領を記載した説明板を作成し、指示する箇所に取付ける。 イ) 電動機出力、燃料消費量等は、原則として表示される値以下とする。
	9	電気容量及び機器表示	ロ) 機器類の能力、容量等は原則として表示される値以上とする。
	10	負 担 金	・ 給水引込負担金 （※ 別途 ・ 本工事） ・ ガス引込負担金 （※ 別途 ・ 本工事）
	11	電 線 ・ 電 線 管	イ) 特記なき電線は600V耐燃性ポリエチレン絶縁電線とする。 ることができ。 ロ) 特記なき電線管は薄鋼電線管又は監督員の承認を得た場合は同一外径のねじなし電線管とする。 ハ) 可とう電線管は第2種金属可とう電線管とする。
	12	機器付属の新御壁	標準仕様書によるほか下記による。 ・ 運転ブロック図に適合するものとする。 ・ 接点及び端子は、仕様書を（※ 適用する） ・ 適用しない。） ・ ボイラ及び冷凍水機等の付属品の始動スイッチ二次側に、保護温度計用電源線を設ける。 ・ インバータ用の制御及び操作用は、仕様書を（※ 適用する） ・ 適用しない。）
	13	塗 装	塗装業者は、※ 監督員の承認する業者 ・ 日本塗装工業会会員 機種の内見えがかり部（戸廻等の内部を含む）は全て塗装を施すこと。（電線管含む）
⑬	保 温	イ) 保温の種類、材料、施工順序及び厚さは標準仕様書による。 ロ) 保温材質は下記による。 ○ 給排水、通気、ろ過循環 （ ・ ポリスチレンフォーム ○ グラスウール） （床下、屋外露出、構架内はポリスチレンフォームとする。） ・ 給排水、鋼板製水機、野道槽等 （※ グラスウール） ・ 消火管 （ ・ グラスウール ・ ポリスチレンフォーム） ・ 蒸気管 （※ ロックウール） ・ 排気管、煙突、煙導 （※ ロックウール） ・ 空調設備配管、ダクト （※ グラスウール） ・ 排煙ダクト （※ ロックウール） ・ 排気筒 （ ・ ロックウール ・ グラスウール） ハ) 屋内露出（ ・ 機械室 ・ 書庫 ・ 倉庫）の配管、ダクトの保温は屋内露出（一般居室、廊下）に該み替える。 ニ) 屋外設置機器の外装仕上げは（ ・ スチン鋼板 ・ 溶融78℃以上鉛鋼板）とする。 ホ) 屋外（多湿箇所）配管の外装仕上げは（ ・ スチン鋼板 ・ 溶融78℃以上鉛鋼板）とする ヘ) ビット内配管の外装仕上げは（ ・ 着色78℃ 31302 ・ 保温なし）とする。 ト) 保温厚さを標準仕様書以上とする場合には特記する。 備考 1 屋内露出及び機械室、倉庫、書庫の配管にはバンド・菊巻を取付けること。 2 水機類は特記のある場合のみ保温を行う。 3 建築基準法施行令第129条の2の5第1項第7号に該当する防火区画などを貫通する給排水管及び通気管並びに消火管は貫通する部分及び前後1,000mmをロックウール保温材にて保温を施すか、建設省告示第1422号（平成12年）又は国土交通大臣認定の方法を適用すること。 4 流し類下部の排水露出配管は保温を施さない。 5 保温を施す屋外露出配管の支持部は全て防錆性能を有する樹脂樹脂製支持台（丸形）によること また、支持バンドは原則としてラッキングの上より支持を施す。 6 コンクリート増設の鋼管類にはプラスチックテープ（JISZ1901 厚さ0.4mm）1/2重ね2回巻きとする 7 増設フレキシブル継手にはベトララム系防水テープを1/2重ね1回巻きの上、 プラスチックテープを1/2重ね1巻きとする。	

一般	15	垂鉛線下面地処理	垂鉛線面の地下処理はエッチングプライマ塗りとする。
	16	防 振 継 手	・ 鋼製フランジ付ベローズ形 (接液部SUS304) ※ 合成ゴム製 ・ ポリテトラフルオロエチレン製 (3山)
	17	フレキシブルジョイント	※ 鋼製フランジ付ベローズ形 (接液部SUS304) ・ 合成ゴム製
	18	は っ り 工 事	既存のコンクリート床・壁等の貫通部の穴明けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
	19	補 修 な ど	工事の施工に伴い既成部分を汚染または損傷した場合は、既成ならぬ補修をする。
	20	他工事との取合い	イ) 鉄筋コンクリート部の貫通箇所及び開口部の補強、その他天井のボード切込み及び地下の補強は ・ 本工事 ※ 別途工事 ロ) コンクリート壁、床及び梁等における設備機器、風道、配管等の筋入れ及び貫通スリーブ部は ※ 本工事 ・ 別途工事 ハ) 機器付属の制御盤及び操作盤以降の配管、配線は ※ 本工事 ・ 別途工事 ニ) 別途盤類への渡り配線の接続は ・ 本工事 ※ 別途工事 ホ) 機器のコンクリート基礎 屋上設置のもの ・ 本工事 ※ 別途工事 屋内設置のもの ・ 本工事 ※ 別途工事 屋外設置のもの ・ 本工事 ※ 別途工事 ヘ) 自動制御の電線管は ・ 本工事 ・ 別途工事 ト) 自動制御の電線の配線は ・ 本工事 ・ 別途工事 チ) 自動制御盤と自動制御機器との配線の接続は ※ 本工事 ・ 別途工事 配管機器等は監督員の指示する箇所に文字印を記入し、弁にはプラスチック札を取付けること。札の文字等は彫り込みとし、SUSチェーンにて取付けのこと。
	21	配 管 表 示	イ) 管周囲の保護 ※ 山砂の類 ・ 樹切土の中の良質土 ロ) 埋戻し土・盛土 ※ 樹切土の中の良質土 ・ 山砂の類 エ) 埋設表示テープ ※ 要 (※ 給水 ※ 消火 ※ ガス ・ 排水 ・ 圧送管) ・ 不要 ロ) 埋設標柱・柱 埋設標柱ピン (※ 要 ・ 不要)
	22	土中埋設配管周囲の保護 砂及び埋戻し土・盛土	ポンプのアンカーボルト・ナット及びピット内等水気のある場所、屋外の機器・配管用の支持金物等は、ステンレス鋼 (SUS304) とする。土中支持もステンレス鋼 (SUS304) とする。
	23	埋 設 表 示	施工後確認試験 (※ 要 ・ 不要)
事	24	支持金物、固定金具等	試験方法 引張試験機による引張試験 確認箇所 対象機器ごとのカネガ&I1本当たりの短期引張強度の2/3以上 試験箇所数 1施工単位に対し1本以上 対象機器 ・ 重要機器
	25	あと施工アンカー	満槽ポンプの電動機の極数は (・ 4 P ・ 2 P) 水中ポンプの名称は監督員の指示により見やすい所に取付けのこと。 下記の保守点検に必要な工具一式を提出する。 ・ ポンプ ・ 送風機 ・ 吹出口 ・ 綱 ・ その他 参照 ※ する ・ しない
	26	ポンプの電動機の極数	設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。また、機器、配管、風道などの耐震対策のため、必要な計算書を監督員に提出する。ただし、重量1kN以下の軽量な機器については、設備機器の取付位置の指定より指定で確実に行えばよいものとする。
	27	ポン プ の 名 称	イ) 機器の取付け及び取付け 設計用水平地震力は、機器の質量 (自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量) に、地域係数と、次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。
	28	保 守 工 具	設計用標準水平震度
	29	岡山市標準施工図	設置場所 機器種別 ・ 重要機器 ・ 一般機器 ・ 重要機器 ・ 一般機器
	30	耐震調査	上層階とは2～6階建の場合は最上層、7～9階建の場合は上層2層、10～12階建の場合は上層3層、13階建以上の場合は上層4層とする。 中間層とは地階、1層を除く各層で上層階に該当しないもの。 水槽類にオイルタンクを含む 重要機器は、次のいずれかに該当するものをいう。また一般機器とは重要機器以外をいう。 ・ 給水機器 (・ 排水機器 (・ 換気機器 ・ 空調機器 ・ 熱源機器 ・ 防災機器 ・ 監視制御設備 ・ 危険物貯蔵装置 ・ 火を使用する設備 ・ 避難経路上に設置する機器 ロ) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1/2とする。
	31	ス リ ー プ	※ 垂鉛線板 ※ つば付鋼管 (水密部) ・ 紙 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管 (VU) ・ 止水リング (・ 無機物材質: 水密部 ・ 有機物材質: 水密部以外)
	32	振 れ 止 め	ダクト、配管等においては、標準仕様書の振れ止めの他必要な箇所に施工する。
通	33	道路使用	※ 施工等で道路を使用する際は道路使用許可等の手続きを行うこと
衛生器具設備	①	大便器・小便器	陶製又はプラスチック製の注意板の取付けは ※ 設計図による。 ・ 取付け。
	②	洗浄用タンク	※ 防曇形陶器製とする。 ・ 設計図による。
	③	洗浄用タンク固定金物	※ フタ固定金物とする。 ・ 設計図による。
	④	大便器用洗浄弁	節水機構とする。
	5	温水洗浄便座	温水洗浄便座は、次の機能を有するほか、JIS A 4422 (温水洗浄便座) によるものとする。 ・ 温風乾燥機能 ・ 振音装置 ・ 操作ボタン
	⑥	陶 器 の 色	監督員の指示による。
給 水	1	量 水 器	観メータは水道事業者からの借用、メーターは買取りとする。
	2	量 水 器 類	※ 水道事業者の指定品とする。 ・ その他
	3	管 網	下記のものとは本仕様による。 イ) 一般配管用 ※ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VE) (SGP-VD) (SGP-VA) ・ 水道用ポリ塩化ビニル管 ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (VP・HIPV) ・ 水道用高性能ポリ塩化ビニル管 (HPPE) ・ 架橋ポリ塩化ビニル管 ・ ポリ塩化ビニル管 ・ その他 ロ) 土間配管、コンクリート壁中 ※ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VD) ・ 水道用ポリ塩化ビニル管 ・ 架橋ポリ塩化ビニル管 ・ ポリ塩化ビニル管 ・ その他 ハ) 地中配管用 ※ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VD) ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (VP・HIPV) ・ 水道用高性能ポリ塩化ビニル管 (HPPE) ・ 水道用ポリ塩化ビニル管 ・ その他 ニ) ビット配管用 ※ 水道用硬質塩化ビニル管 (SGP-VE) (SGP-VD) ・ 水道用高性能ポリ塩化ビニル管 (HPPE) ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管 (VP・HIPV) ・ 架橋ポリ塩化ビニル管 ・ ポリ塩化ビニル管 ・ その他
	4	ライニング鋼管接続	100A以上の接続 ※ わじ込み接続 ・ 標準仕様書による
備			

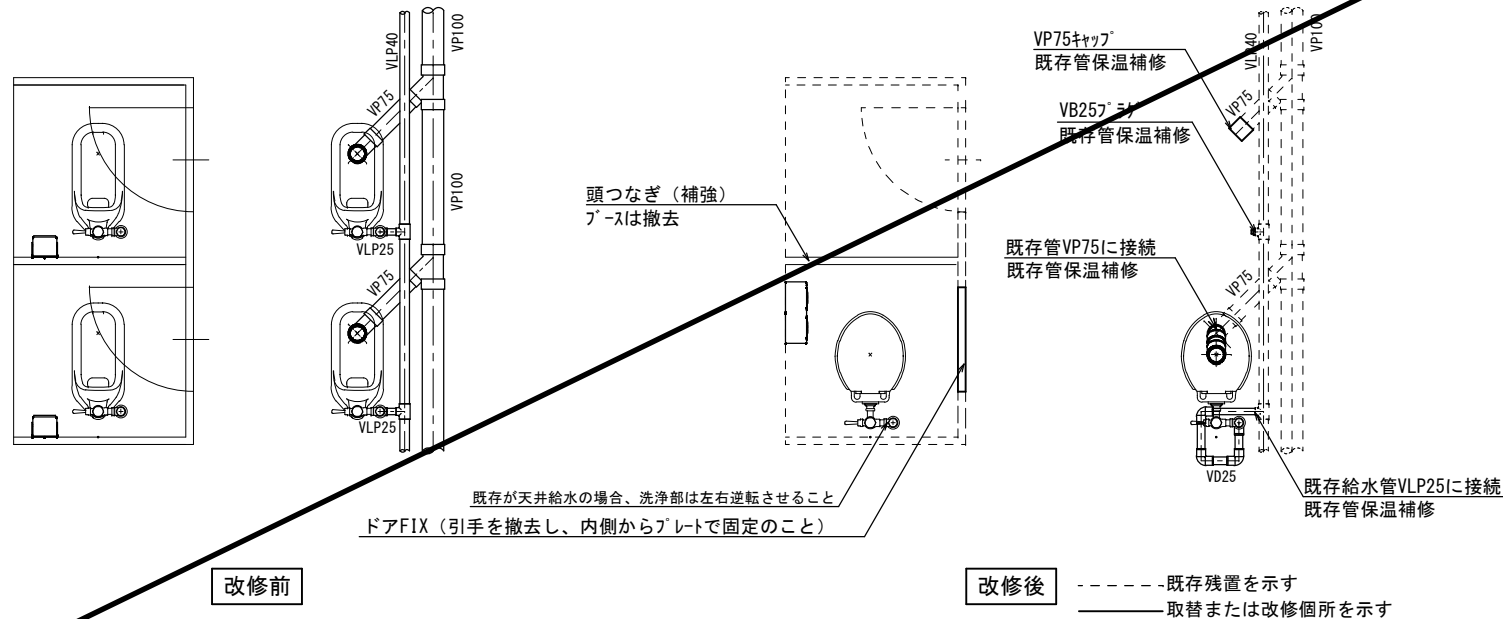
給 水 設 備	⑤	弁 類	イ) 公営水道に直接する配管に使用するものはJIS又はJV 10Kとする。 ロ) 高圧水栓以降の配管に使用するものはJIS又はJV 5Kとする。ただし、排水ポンプに使用するもの及び特配部分はJIS又はJV 10Kとする。 ハ) 65A以上の鉄製切断弁、鉄製逆止弁は、ライニング弁とする。50A以下の切断弁、青銅製逆止弁は管端コブ付バルブとする。 ニ) 埋設箇所は埋設用バルブとする。		
	6	定 流 量 弁	取付ける。		
	7	水槽周り可とう継手	合成ゴム製（2山以上）		
	8	埋 設 深 度	岡山市水道給水装置施工基準に適合する他図示による		
	⑩	ライニング鋼管管端処理	※ 管端防食継手 ・ 防食コブ ・ その他		
	10	排水栓ボックス	・ 蓋はSUS製継手とする。		
	11	給水管の使用許可	※ 給水管所有者に使用許可等の手続きを行うこと。		
排 水 設 備	⑫	水質基準	水道法に定める水質基準を満たすことのできる管、弁、継手を使用すること		
	①	屋 内 汚 水 管 （第1棟まで含む）	・ 便槽付属品 ・ 排水用ノンターレエポキシ塗装鋼管 ・ 耐火二層管 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（RF-V-VP） ・ その他		
	2	屋 内 雑 排水 管 （第1棟まで含む）	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管） ・ 排水用ノンターレエポキシ塗装鋼管 ・ 耐火二層管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ 排水用硬質塩化ビニルライニング管 ・ その他 ・ 硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管（RF-V-VP） ・ その他 ※鋼管を使用する場合 汚水合流系統の配管は とする		
	3	通 気 管	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管） ・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・ その他		
	4	屋 外 排 水 管	※ 硬質ポリ塩化ビニ管（VU） ・ 硬質ポリ塩化ビニ管（VP） ・ 94(34硬質ポリ塩化ビニ管（RS-VU） ・ 耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニ管（オンプ圧造管） ・ 配管用炭素鋼鋼管（白管） ・ その他 ・ 寸材質 （ ・ 樹脂コーティング ・ 樹脂製 ・ 標準品）		
	5	排水トラップ	※ 岡山市標準施工図 ・ 塩化ビニル製ます ・ 樹脂製ます		
	6	ます	・ 既製コンクリートます ・ その他		
	7	グリーストラップ	SUS製炭素鋼管 ※ 取付ける ・ 取付けない		
	8	マンホール鎖	SUS製鎖とする		
	9	共 栓 鎖	SUS製鎖とする		
	10	漏水試験機	図示の位置に取付付ける。		
	11	洗面台接続	洗面部に直接する排水管は、器具トラップより1サイズアップする。		
	12	プール排水管	露出部は塗装仕上げと保温しない		
⑬	排水処理先	・ 公共下水道（ ・ 分流水 ・ 合流式） ○ 合併浄化槽（ ・ 新設 ○ 既設） ・ その他			
給 湯 設 備	1	管 類	・ 270(1)鋼鋼管（※ 拡管式 ・ 溶接接合 ・ その他） ・ 鋼管彫形（ ・ 保温付 ・ 保温なし） ・ 炭素鋼製引込管 ・ ガス引込管 ・ 耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 ・ その他		
	2	弁 類	JIS又はJV 5Kとする。ただし、特配部分は 10K とする。		
	3	断熱水槽の保温	※ 施工する ・ 施工しない		
	4	給湯用簡易ボイラ	ガスバーナはガンタイプとする。		
	5	ライニング鋼管管端処理	SUS製コブ内蔵継手（100A以上防蝕コブ）		
ろ 過 循 環 設 備	1	ろ 過 装 置	能力 ・ 60m ³ /h ・ 100m ³ /h		
	2	ポンプ廻り配管	可とう継手 ・ 付ける ・ 付けない 圧力計 ・ 付ける ・ 付けない		
	3	循 環 配 管	給水設備による。		
	4	弁 類	給水設備による。		
	5	保 温	プールサイド下部は ・ 屋外露出仕様 ・ 床下暗渠仕様 プールサイド下部の室内は ・ 屋外露出仕様 ・ 機械室・倉庫仕様 ・ 床下暗渠仕様		
消 火 設 備	1	屋内消火栓箱	・ 1号消火栓 （ ※ 国土交通省仕様 ・ その他） ・ 吊掛作性1号消火栓 （ ※ 国土交通省仕様 ・ その他） ・ 2号消火栓 （ ・ ドラム式 ・ リール式 ・ その他） ※ 密閉型2号消火栓		
	2	消火栓弁の耐圧	最大使用圧力とする。		
	3	消 火 栓 弁	減圧機構付消火栓弁を ※ 取付ける ・ 取付けない		
	4	保 温	イ) 配管の保温は ・ 施工する ※ 施工しない （屋外露出の保温種別は e2・(ハ) による） ロ) 呼水槽の保温は ・ 施工する ※ 施工しない ハ) 充水槽の保温は ・ 施工する ※ 施工しない		
	5	フレキシブルジョイント	※ 鋼製フランジ付ベローズ形（接液部SUS304）		
	6	消 火 ポンプ	※ ユニット型 制御盤はユニット組み込みとする。 ※ 日本消防設備安全センター認定品とする。		
	7	管 類	イ) 一般配管用 ※ 配管用炭素鋼鋼管（白管） ・ 圧力配管用炭素鋼鋼管（白管） ロ) 土中配管用（土間を含む） ※ 消火用外面硬質塩化ビニルライニング鋼管（SGP-VS） ・ 消火用高性能ポリ引込管（HPPE） ・ その他		
ガ ス 設 備	1	供給ガスの種類	・ 都市ガス（ ※ 13A 発熱量 46MJ/m ³ ） ・ 液化石油ガス（ 発熱量 100.47MJ/m ³ ）		
	2	管	イ) 一般配管用 ・ 配管用炭素鋼鋼管（ ・ 白管 ・ 黒管） ・ ポリエチレン被覆鋼管 ・ ガス用ステンレス鋼フレキシブル管 ロ) 地中配管（土間を含む） ・ ポリエチレン被覆鋼管 ・ ガス用ポリエチレン管 ・ 塩化ビニル被覆鋼管		
	3	ガ ス メ ー タ	※ メータはガス供給業者より借用、メータは買取りとする。 （ ・ マイコンメータ ・ その他）		
	4	ガスメータの取付	※ 本工事に含む ・ その他		
	5	緊急遮断弁の取付	※ 本工事に含む ・ その他		
	6	供給ガス	・ ボンベ ・ バルブタンク		
	7	ボンベ周りの配管	※ 自動切換式		
	8	プロパン庫壁や構体	指定の箇所に取り付ける		
	9	ボンベ転倒防止	※ 岡山市標準施工図による ・ 公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）施工73(h)		
	10	管の地中埋設深さ	一般 300mm以上 ・ 車道道路 600mm以上 ・ 1,200mm以上		
	11	流下対策装置	※ 伸縮継手 ・ 溶接配管 ・ 機械的接合 ・ 継手の組合せ		
	12	電 気 防 蝕	※ なし ・ あり（ ・ 流電陽極法 ・ その他）		
	13	耐震対策設計	耐震設計にあたり「内管耐震設計マニュアル（一般建築物）平成11年10月」「高層建築物用ガス設備耐震設計・施工指針」の手引き昭和62年11月」いずれも社団法人日本ガス協会発行を参照する。 備考 1 埋設配管の継手部周りの防食処置は、標準仕様書 第6編第2章 都市ガス設備2.2.5よりガス事業者の承認する工法による。 2 配管の吊り及び支持は絶縁処理を施す。 3 塗装仕上げにおいて仕様書以外に必要な箇所は明記する。 4 マグネシウム陽極の設置基準 ① 低圧埋設配管で溶接接合による100A以上の鋼管部分の延長が3m以上ある場合は、絶縁継手を取り付け、さらにマグネシウム陽極（犠牲陽極）を設置する。		

ガ ス 設 備			② 中間圧・中圧配管の場合は埋設延長にかかわらず絶縁継手とマグネシウム陽極を取り付ける ③ その他埋設配管場所が腐性の強い土壌、腐蝕性の強い薬品を扱う工場敷地及びその周辺、湿地等、海水の影響を受ける場所、鉱さい等による埋立地等、特に腐蝕性が強いと判断される場所の場合は、防食措置を別途検討する。
空 気 調 和 ・ 冷 暖 房 ・ 換 気 設 備	1	設計用温度条件 (温度調整目標値)	国土交通省大臣官庁庁長官審判官補の建築設備設計基準(最新版)
	2	冷水・温水・冷温水管	・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 2F1/2鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) ・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 特種硬質強化ポリエチレン管(RF-VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 結露防止層付硬質塩化ビニル管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(カラーVP) ※ 強化ビニルライニング鋼管 (・ SGP-FVB ・ SGP-FVB) ・ ステンレス鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) ・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE)
	3	ドレン管	・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 特種硬質強化ポリエチレン管(RF-VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 結露防止層付硬質塩化ビニル管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(カラーVP) ※ 強化ビニルライニング鋼管 (・ SGP-FVB ・ SGP-FVB) ・ ステンレス鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) ・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE)
	4	冷却水管	・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 特種硬質強化ポリエチレン管(RF-VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 結露防止層付硬質塩化ビニル管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(カラーVP) ※ 強化ビニルライニング鋼管 (・ SGP-FVB ・ SGP-FVB) ・ ステンレス鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) ・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE)
	5	膨張・空気抜き・補給水管	・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 特種硬質強化ポリエチレン管(RF-VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 結露防止層付硬質塩化ビニル管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(カラーVP) ※ 強化ビニルライニング鋼管 (・ SGP-FVB ・ SGP-FVB) ・ ステンレス鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) ・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE)
	6	油 管	・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 特種硬質強化ポリエチレン管(RF-VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 結露防止層付硬質塩化ビニル管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(カラーVP) ※ 強化ビニルライニング鋼管 (・ SGP-FVB ・ SGP-FVB) ・ ステンレス鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE) ・ 配管用炭素鋼管(白管) ・ 高性能ポリエチレン管(HPEE)
	7	冷媒配管	・ 断熱材被覆鋼管(標準仕様書による) ・ 機器の標準品(保温共) JIS又はJV 5K とする。ただし、特記部分は 10K とする。
	8	井 類	・ 断熱材被覆鋼管(標準仕様書による) ・ 機器の標準品(保温共) JIS又はJV 5K とする。ただし、特記部分は 10K とする。
	9	ファンコイルユニット	イ) 流量調整弁を取り付ける ロ) 定流量弁(・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 取付 ハ) 遠方操作スイッチの渡り配管 ・ 本工事 ・ 別途工事 ニ) 遠方操作スイッチの露り配線 ※ 本工事 ・ 別途工事 ホ) 遠方操作スイッチのプレートは金属製とする。 ヘ) ドレンパンは ・ SUS 製 ・ 鋼板製 ・ 合成樹脂製
	10	吹出口・吸込口	原則、ボックスは亜鉛鉄板製とする。 枠及びスリットの材質は ※ アルミニウム製 (※ 着色する ・ 着色しない) イ) 低速ダクトとする。 ロ) 矩形ダクトは、 ・ アングル工法 ・ コーナポルト工法 ハ) 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板製とする。
	11	ダクト	・ 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板製とする。 防煙ダンパは、 ※ 電気式 ・ 空気式 ダンパ復帰機構は、 ※ 遠隔式 ・ 手元式 電気式防煙ダンパ動作用電圧、電流はDC24V、0.6A以下とする。 取付位置は図示による。材質はアルミニウム製とする。 イ) シーリングディフューザ形吹出口には、下記のチャンパを設ける。 ネック径が200φ以下 400×400×250H ネック径が200φを超えるもの 500×500×300H ロ) 外壁に面するガラリにチャンパ等を設ける場合には原則として排水を設ける。 イ) シーリングディフューザ形吹出口に接続チャンパ及び図示したダクト並びにチャンパ板とする。 ロ) 内貼チャンパ類の寸法表示は、外形寸法とする。 ハ) 吹出口以外の内貼したチャンパには点検口(450×500)を取付ける。
	12	防煙・防火ダンパ	形式はビード管式(コック付)とする。取付は図示による。 標準仕様書及び図示の箇所を除く、下記の箇所に取り付ける。 ・ 温水ボイラの温水管入側 ・ 空気調和機器の送風風道、外気風道及び給気風道 ・ 冷温水管寄せ(往及び冷温水管寄せの各送風管) 機器付属以外の風道等は ※ 円形のバイメタル式(100φ以上) ・ ブルドン管式 イ) 空気漏れを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。 ※ 手動 ・ 自動 ロ) 自動空気抜き弁にはストレーナを取り付ける。
	13	風量測定口	中央機械室の冷却水管・冷温水管等の吊り及び支持は、防振吊り金物又は防振支持金物で行う。
	14	吹出口チャンパ	取付高さは ※ 1,300mm ・ mm イ) 空気調和機又はフィルタチャンパ装着枚数の50%以上を予備品(特付)として納める。 ただし、自動巻取りの場合は100%とする。 ロ) ファンコイルユニットは機種毎に30%以上、また、空冷ヒートポンプ室内用は100%に当たるフィルタを予備品(特付)として納める。最低1枚とする。 ※ 100%に当たる予備品を納める。 ・ 納めない。
	15	消音内貼り	イ) 送風機の防振基礎(防振ゴム使用の場合)の絶縁効率は %とする。 ロ) ポンプの防振基礎(防振ゴム使用の場合)の絶縁効率は %とする。 イ) 屋内露出部の保温化被覆材は(・ 樹脂製 ・ 鉛-亜鉛鉄板 ・ その他)とする。 ロ) 屋外露出部は(・ ステンレス鋼板 ・ 樹脂製化粧カバー ・ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 ・ その他)とする。
	16	瞬間流量計	イ) 全熱交換機(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 ロ) 送風ダクトは保温 する。 ・ しない。 ハ) ポンプは保温 する。 ・ しない。 ニ) ポンプ回りの防振機構、フレキシブル継手は保温 する。 ・ しない。 ホ) 換気ダクト(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 エ) エアコン本体は将来工事の為、スリーブ(樹脂製キャップ付き)のみ今回工事とする。 ※ 家用用機器「第一種特定製品」のフロンはフロリ排出抑制法に従って処理すること。 ・ 家用用機器(・ 室外機にフロリ回収後、取外し指定場所保管 ・ 本工事対象外) ・ 吸気式冷凍機(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) ・ 吸気式冷凍機の吸気液(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物)
	17	温度計	イ) 全熱交換機(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 ロ) 送風ダクトは保温 する。 ・ しない。 ハ) ポンプは保温 する。 ・ しない。 ニ) ポンプ回りの防振機構、フレキシブル継手は保温 する。 ・ しない。 ホ) 換気ダクト(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 エ) エアコン本体は将来工事の為、スリーブ(樹脂製キャップ付き)のみ今回工事とする。 ※ 家用用機器「第一種特定製品」のフロンはフロリ排出抑制法に従って処理すること。 ・ 家用用機器(・ 室外機にフロリ回収後、取外し指定場所保管 ・ 本工事対象外) ・ 吸気式冷凍機(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) ・ 吸気式冷凍機の吸気液(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物)
	18	冷温水管の空気抜き	イ) 全熱交換機(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 ロ) 送風ダクトは保温 する。 ・ しない。 ハ) ポンプは保温 する。 ・ しない。 ニ) ポンプ回りの防振機構、フレキシブル継手は保温 する。 ・ しない。 ホ) 換気ダクト(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 エ) エアコン本体は将来工事の為、スリーブ(樹脂製キャップ付き)のみ今回工事とする。 ※ 家用用機器「第一種特定製品」のフロンはフロリ排出抑制法に従って処理すること。 ・ 家用用機器(・ 室外機にフロリ回収後、取外し指定場所保管 ・ 本工事対象外) ・ 吸気式冷凍機(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) ・ 吸気式冷凍機の吸気液(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物)
	19	防振吊り金物及び防振支持金物	取付高さは ※ 1,300mm ・ mm イ) 空気調和機又はフィルタチャンパ装着枚数の50%以上を予備品(特付)として納める。 ただし、自動巻取りの場合は100%とする。 ロ) ファンコイルユニットは機種毎に30%以上、また、空冷ヒートポンプ室内用は100%に当たるフィルタを予備品(特付)として納める。最低1枚とする。 ※ 100%に当たる予備品を納める。 ・ 納めない。
	20	温度調節器・湿度調節器	イ) 送風機の防振基礎(防振ゴム使用の場合)の絶縁効率は %とする。 ロ) ポンプの防振基礎(防振ゴム使用の場合)の絶縁効率は %とする。 イ) 屋内露出部の保温化被覆材は(・ 樹脂製 ・ 鉛-亜鉛鉄板 ・ その他)とする。 ロ) 屋外露出部は(・ ステンレス鋼板 ・ 樹脂製化粧カバー ・ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 ・ その他)とする。
	21	エアフィルタの予備品	イ) 送風機の防振基礎(防振ゴム使用の場合)の絶縁効率は %とする。 ロ) ポンプの防振基礎(防振ゴム使用の場合)の絶縁効率は %とする。 イ) 屋内露出部の保温化被覆材は(・ 樹脂製 ・ 鉛-亜鉛鉄板 ・ その他)とする。 ロ) 屋外露出部は(・ ステンレス鋼板 ・ 樹脂製化粧カバー ・ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 ・ その他)とする。
	22	グリッドフィルタの予備品	イ) 送風機の防振基礎(防振ゴム使用の場合)の絶縁効率は %とする。 ロ) ポンプの防振基礎(防振ゴム使用の場合)の絶縁効率は %とする。 イ) 屋内露出部の保温化被覆材は(・ 樹脂製 ・ 鉛-亜鉛鉄板 ・ その他)とする。 ロ) 屋外露出部は(・ ステンレス鋼板 ・ 樹脂製化粧カバー ・ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 ・ その他)とする。
	23	防振基礎	イ) 送
	24	冷媒配管の保温カバー	イ) 送
	25	保 温	イ) 全熱交換機(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 ロ) 送風ダクトは保温 する。 ・ しない。 ハ) ポンプは保温 する。 ・ しない。 ニ) ポンプ回りの防振機構、フレキシブル継手は保温 する。 ・ しない。 ホ) 換気ダクト(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 エ) エアコン本体は将来工事の為、スリーブ(樹脂製キャップ付き)のみ今回工事とする。 ※ 家用用機器「第一種特定製品」のフロンはフロリ排出抑制法に従って処理すること。 ・ 家用用機器(・ 室外機にフロリ回収後、取外し指定場所保管 ・ 本工事対象外) ・ 吸気式冷凍機(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) ・ 吸気式冷凍機の吸気液(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物)
	26	スリープ	イ) 全熱交換機(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 ロ) 送風ダクトは保温 する。 ・ しない。 ハ) ポンプは保温 する。 ・ しない。 ニ) ポンプ回りの防振機構、フレキシブル継手は保温 する。 ・ しない。 ホ) 換気ダクト(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 エ) エアコン本体は将来工事の為、スリーブ(樹脂製キャップ付き)のみ今回工事とする。 ※ 家用用機器「第一種特定製品」のフロンはフロリ排出抑制法に従って処理すること。 ・ 家用用機器(・ 室外機にフロリ回収後、取外し指定場所保管 ・ 本工事対象外) ・ 吸気式冷凍機(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) ・ 吸気式冷凍機の吸気液(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物)
	27	冷媒等の処理	イ) 全熱交換機(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 ロ) 送風ダクトは保温 する。 ・ しない。 ハ) ポンプは保温 する。 ・ しない。 ニ) ポンプ回りの防振機構、フレキシブル継手は保温 する。 ・ しない。 ホ) 換気ダクト(・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 エ) エアコン本体は将来工事の為、スリーブ(樹脂製キャップ付き)のみ今回工事とする。 ※ 家用用機器「第一種特定製品」のフロンはフロリ排出抑制法に従って処理すること。 ・ 家用用機器(・ 室外機にフロリ回収後、取外し指定場所保管 ・ 本工事対象外) ・ 吸気式冷凍機(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) ・ 吸気式冷凍機の吸気液(・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物)
工事名 岡山市立小中学校校便所改修工事(光南台中学校区)		N o .	
図面名 岡山市建築設備工事(機械)仕様書		M-01	
岡山市 都市整備局 住宅・建築部 公共建築課			
課長	課長補佐	係長	課長
			担当者
			承認
			検図
			製図

パターン 1



パターン 2

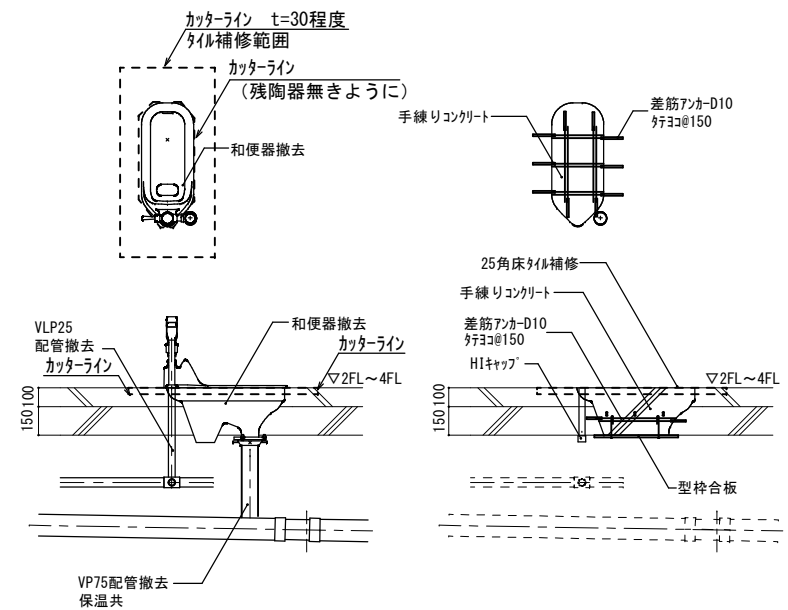


機械設備

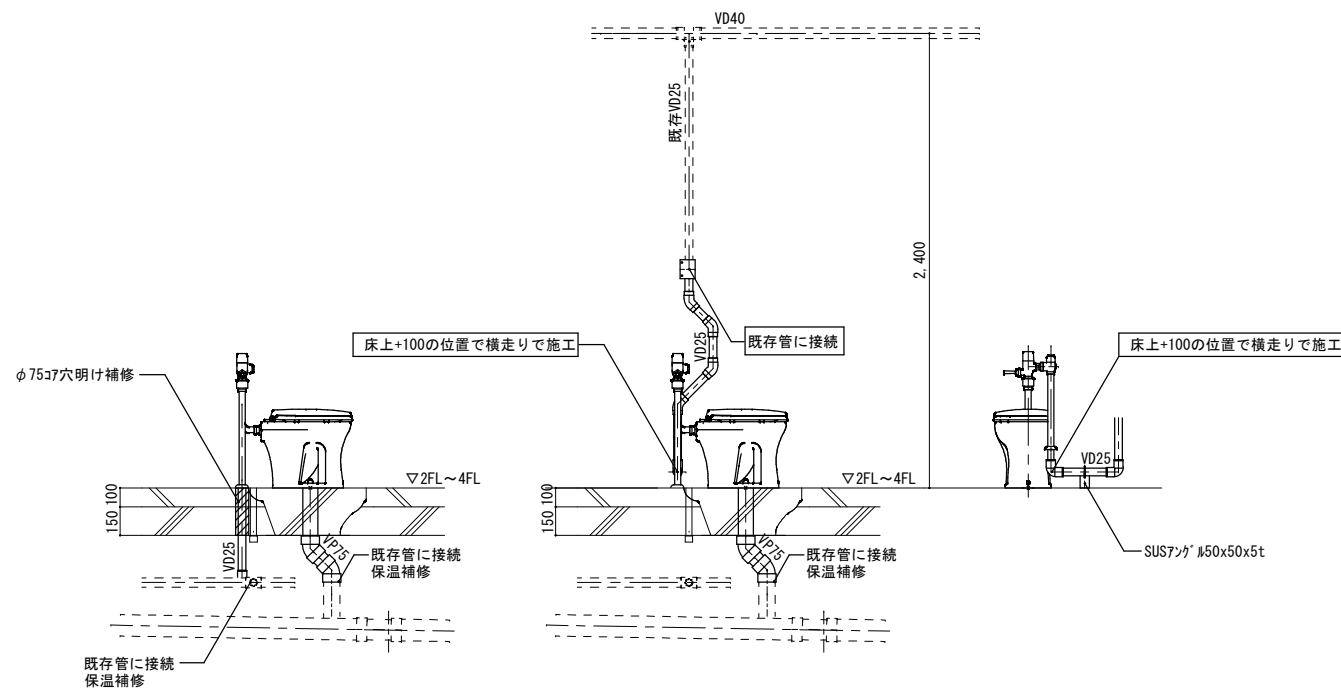
記 号	名称	仕様	参考型式 (TOTO)	参考型式 (LIXIL)
	洋風便器	低圧フラッシュ [®] ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ式、普通便座 (蓋有り)	CS140#NW1, HP430-7, TV550S, TSF640LR, T82CR32 T56PH×2, TS152-1, TC300#NW1	YCP-P13S, CF-8AWP, CF-63UT, CF-103BB CF-115M-1, CF-115M-2, CF-47AT
	紙巻器		YH650	CF-AA64

共通	給水管	SGP-VD	継手 (VD)、一部 (VB)、露出部は塗装無し、保温なし
			既存給水管より分岐、一部保温補修
	排水管	VP	改修箇所は保温なし
			廃止の排水管は分岐部でキャップ止め
	便所ブース一部改造		ドアは外開き（常時閉）に変更。開き止めを設置すること。 ドアFIX（引手を撤去し、内側からアレットで固定のこと） 表示付きのカギへ取替えること。 既存ブースを可能な限り利用すること。
	その他		床：既存（湿式）のままのこと。 天井：既存のままのこと。 壁：既存のままのこと。

共通事項



和便器撤去跡改修要領図

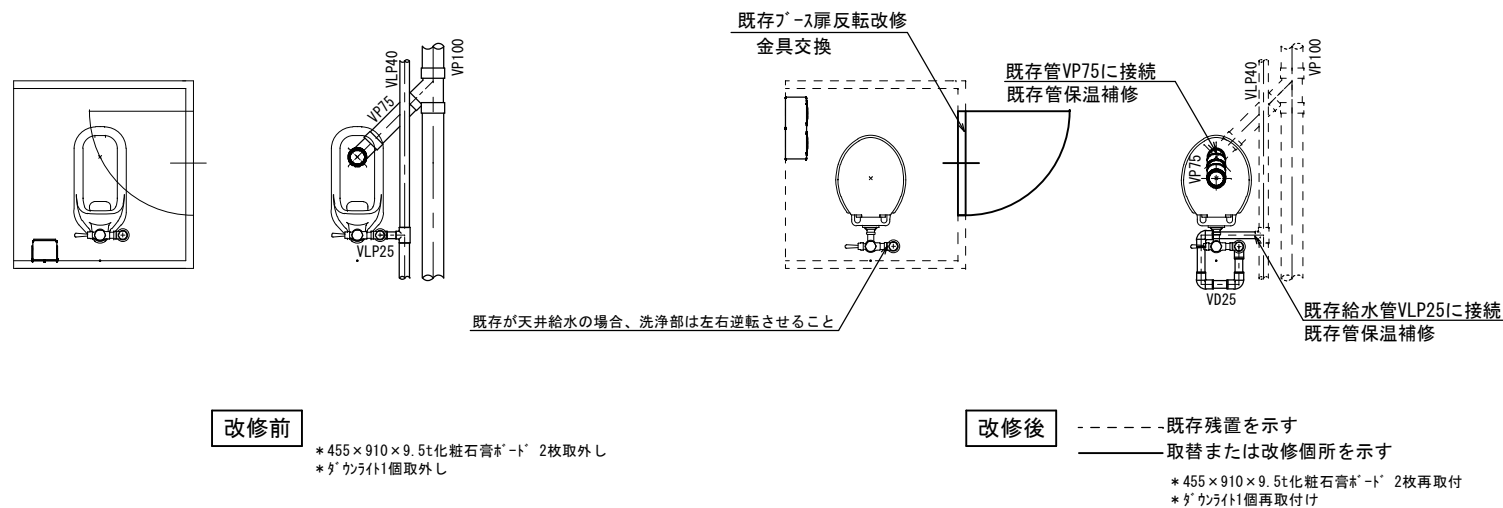


* 既存が天井給水の場合

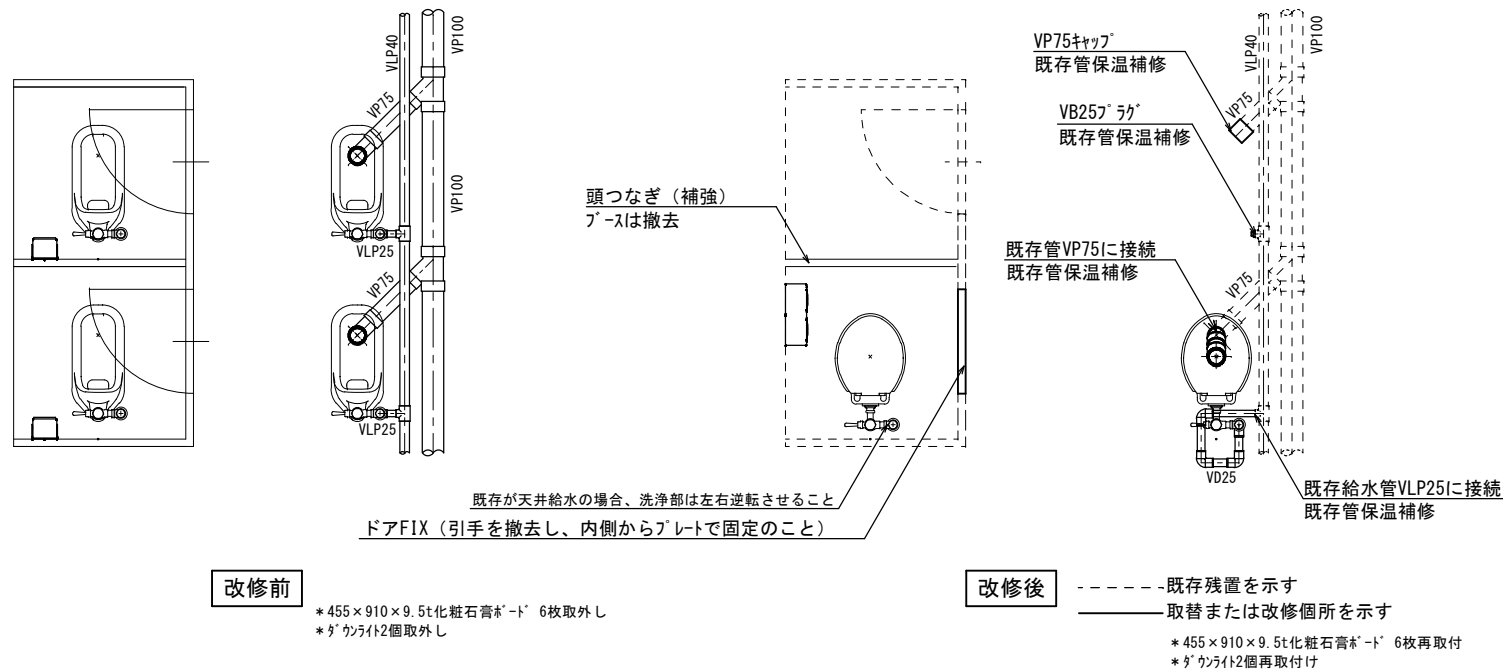
洋便器設置要領図

工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）			No.		
図面名	便所平面詳細図（床湿式洋式） 2階以上階（A'・タンク1・A'・タンク2）			階尺	A1 1/20 A3 1/40	M-02
岡山市	都市整備局	住宅・環境部	公共建築課	令和8年3月		
課長	課長補佐	係長	課長	担当者	承認	検印
						製図

パターン 3



パターン 4

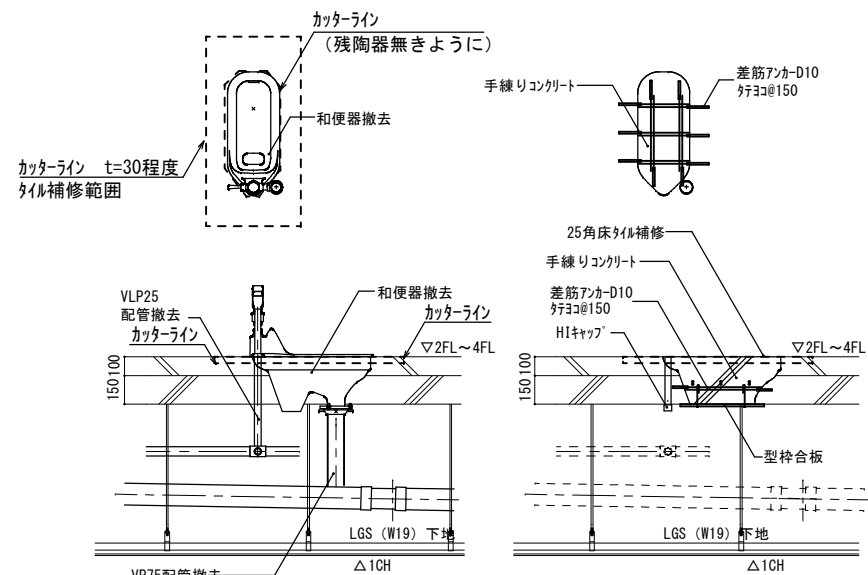


機械設備

記 号	名称	仕様	参考型式 (TOTO)	参考型式 (LIXIL)
	洋風大便器	低圧フラッシュ [®] ｽﾌﾟｰ式、普通便座（蓋有り）	GS140#NW1, HP430-7, TV550S, TSF640LR, T82CR32 T56PH×2, TS152-1, TC300#NW1	YCP-P13S, CF-8AWP, CF-63UT, CF-103BB CF-115M-1, CF-115M-2, CF-47AT
	紙巻器		YH650	CF-AA64

共通	給水管	SGP-VD	継手 (VD)、一部 (VB)、露出部は塗装無し、保温なし 既存給水管より分岐、一部保温補修
	排水管	VP	改修箇所は保温なし 廃止の排水管は分岐部でキャップ止め
	便所ブース一部改造		ドアは外開き（常時閉）に変更。開き止めを設置すること。 ドアFIX（引手を撤去し、内側からアレットで固定のこと） 表示付きのカギへ取替えること。 既存ブースを可能な限り利用すること。
	その他		床：既存（湿式）のまものこと。 天井：既存の天井ボード及び照明器具を取外し再取付けのこと。 壁：既存のまものこと。

共通事項



パターン 3

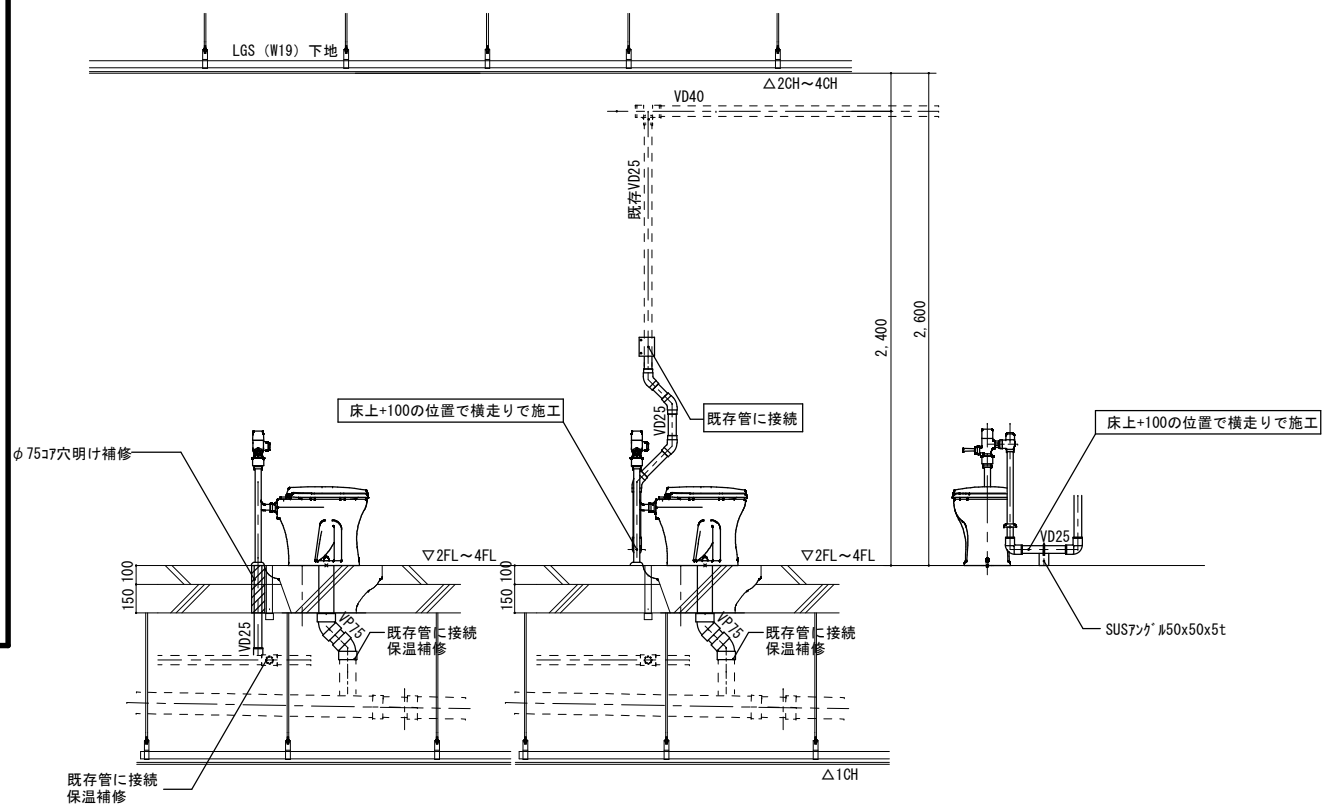
455×910×9.5t化粧石膏・ト 2枚取外し・再取付け
*タウライト1個取外し・再取付け

パターン 4

*455×910×9.5t化粧石膏ボード 6枚取外し・再取付け
*タウライト2個取外し・再取付け

和便器撤去跡改修要領図

* 下階に天井がある場合



* 既存が天井給水の場合

パターン3

* 455×910×9.5t化粧石膏ボード 2枚取外し・再取付け
* ダウンライト1個取外し・再取付け

パターン4

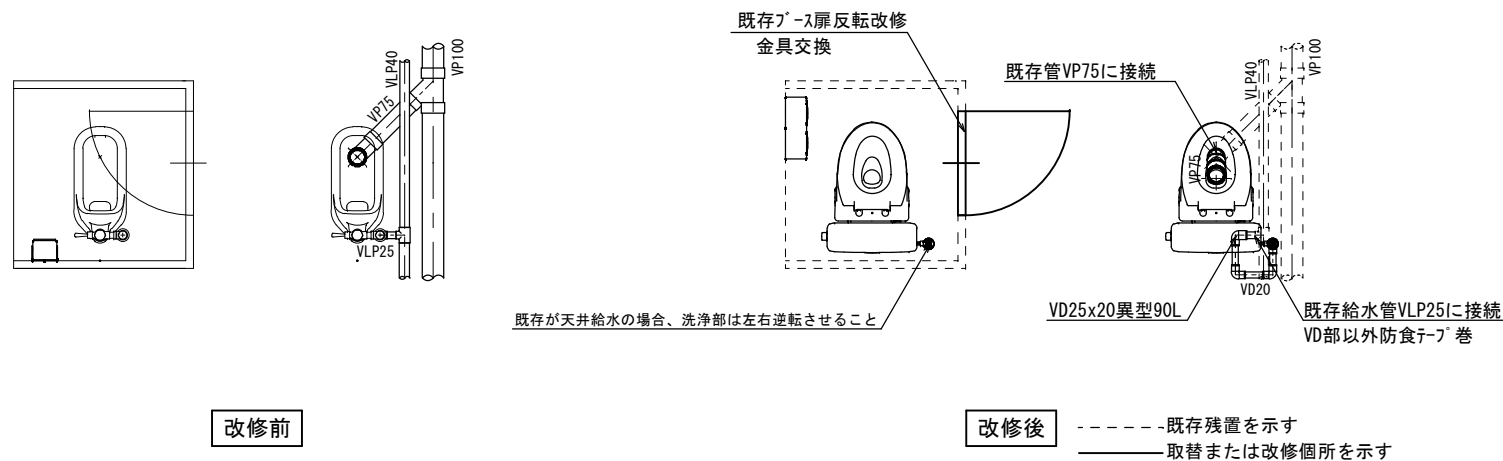
* 455×910×9.5t化粧石膏*ト 6枚取外し・再取付け
* ダウンライト2個取外し・再取付け

洋便器設置要領図

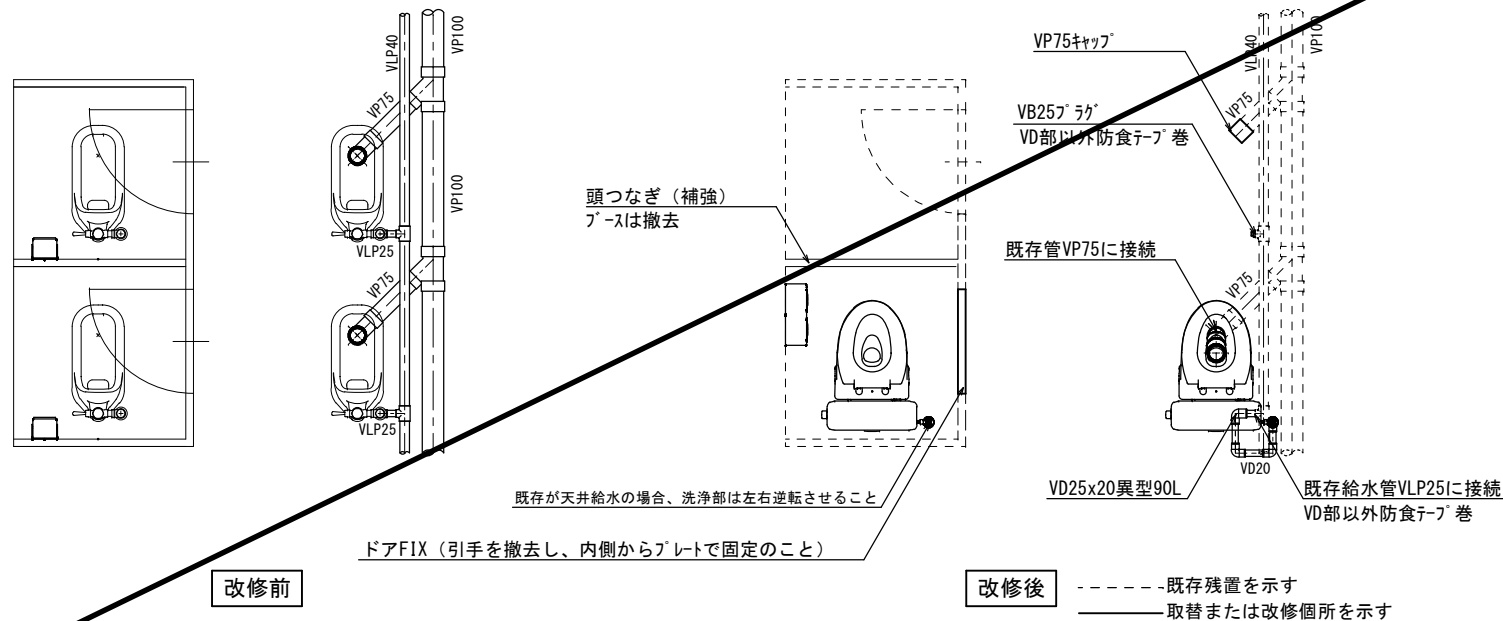
* 下階に天井がある場合

工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）			No.		
図面名	便所平面詳細図（床湿式洋式化） 2階以上階（A'・タンク3・B'・タンク4）			階尺	A1 1/20 A3 1/40	M-03
岡山市	都市整備局 住宅・環境部 公共建築課			令和8年3月		
課長	課長補佐	係長	課長	担当者	承認	検印
						製図

パターン5



パターン 6

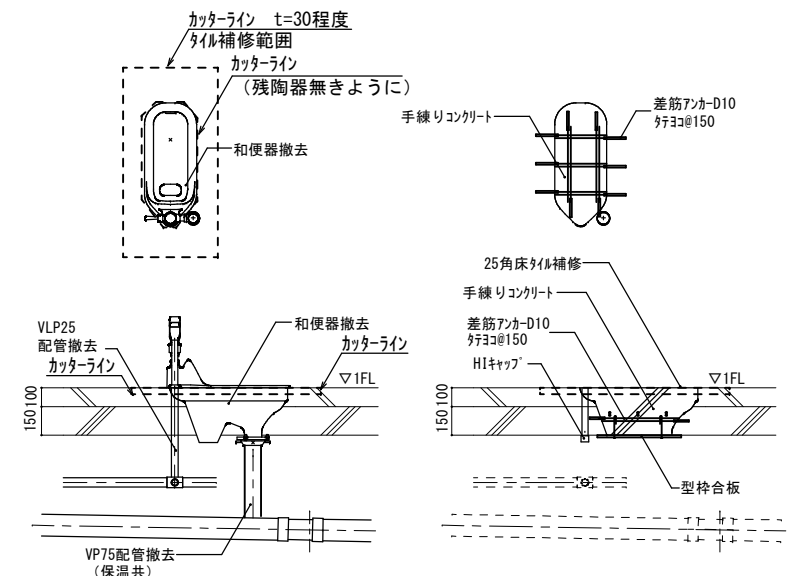


機械設備

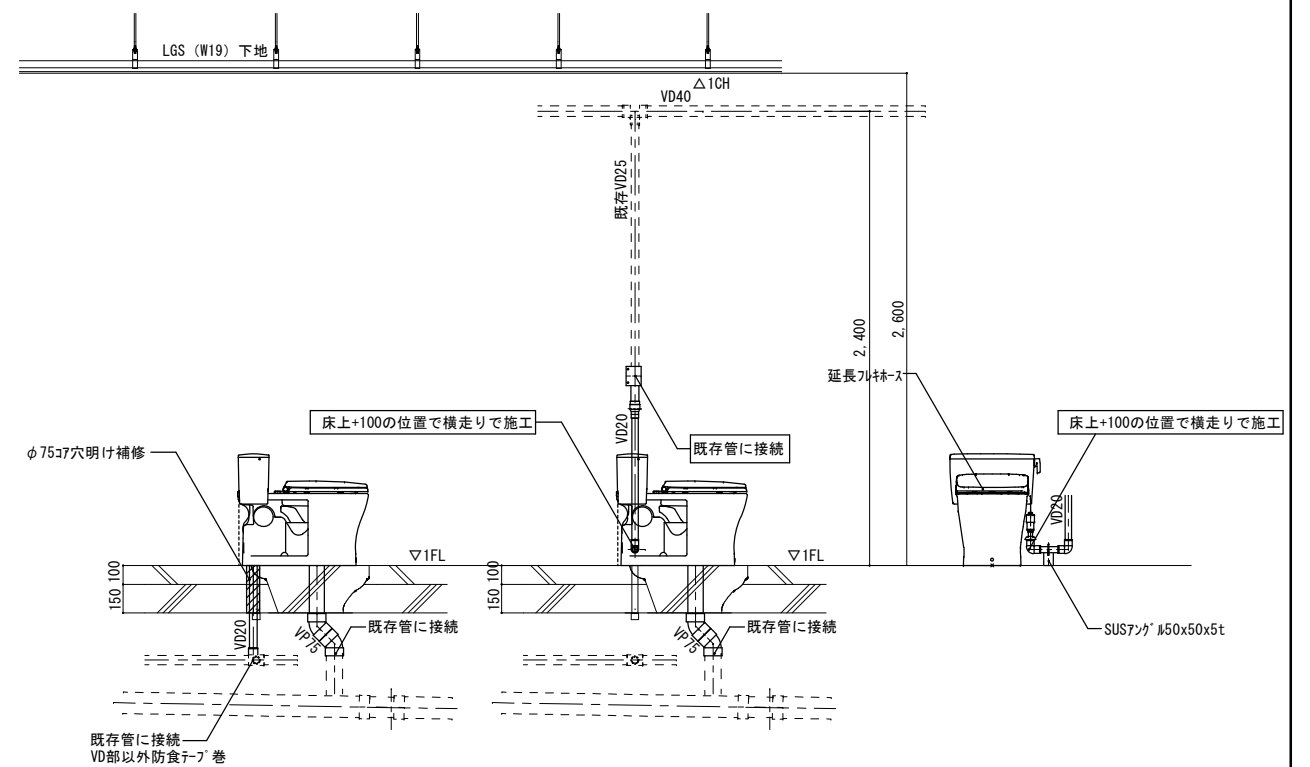
記 号	名称	仕 様	参考型式 (TOTO)	参考型式 (LIXIL)
	洋風大便器	リフト掃除口付きフラッシュタンク式 普通便座（蓋有り）	CFS498BMCT#NW1, TC301#NW1	BC-P110HM, DQ-PA150CH, CF-49AT 322-1165-630, A-10476
	紙巻器		YH650	CF-AA64

共通	給水管	SGP-VD	継手(VD)・バルブ・土間部は塗装無し。保温なし
			既存給水管より分岐、一部保温補修、防食テープ巻
	排水管	VP	改修箇所は保温なし
			廃止の排水管は分岐部でキャップ止め
	便所ブース一部改造		ドアは外開き(常時閉)に変更。開き止めを設置すること。
			ドアFIX(引手を撤去し、内側からアレットで固定のこと)
			表示付きのカギへ取替えること。
			既存ブースを可能な限り利用すること。
その他			床：既存(湿式)のままのこと。
			天井：既存のままのこと。
			壁：既存のままのこと。

共通事項



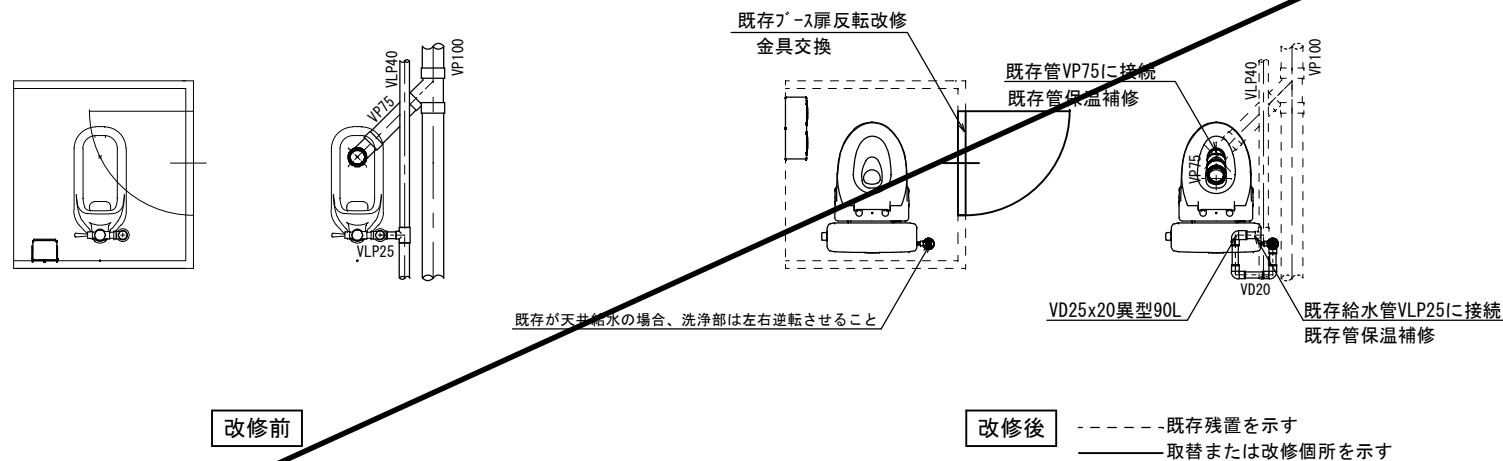
和便器撤去跡改修要領図



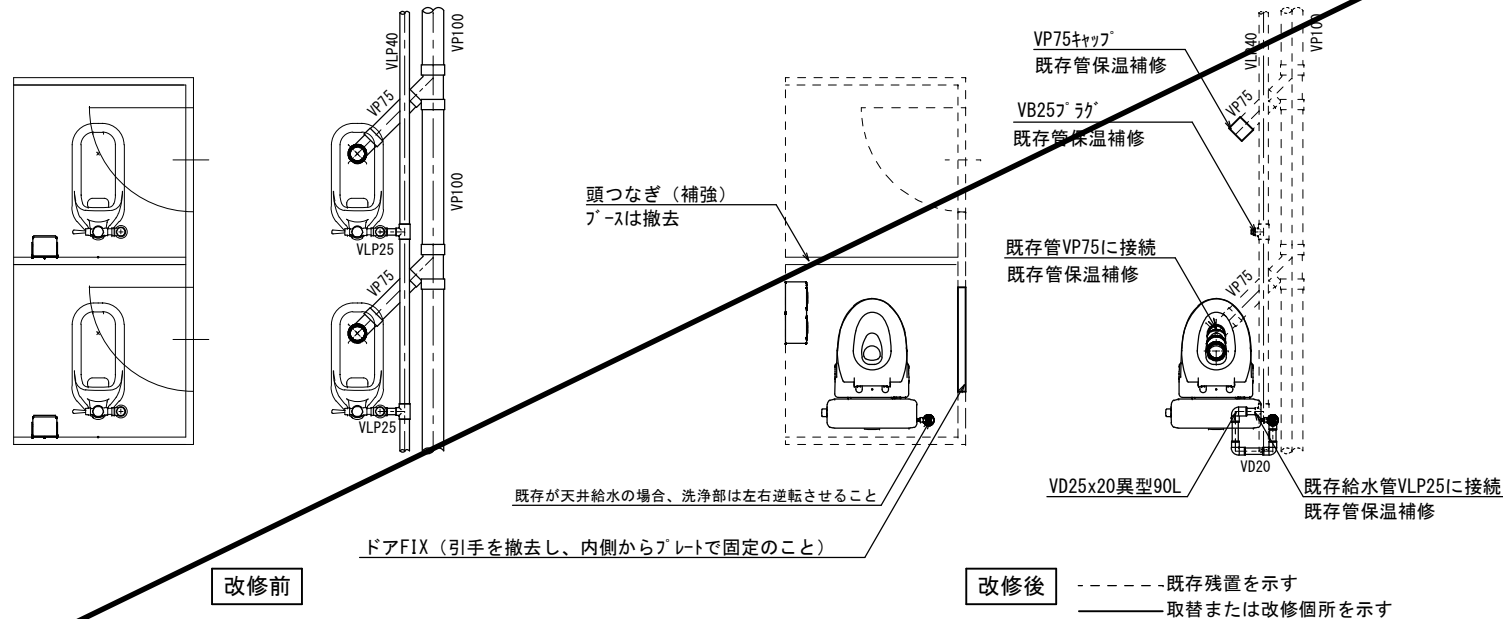
洋便器設置要領図

工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）				No.	
図面名	便所平面詳細図（床湿式洋式化） 1階部（'n.ア-ン.5. 'n.ア-ン6）				M-04	
岡山市	都市整備局	住宅・建部課	公共建築課	令和8年3月		
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検印
					承認	製図

パターン 7



パターン 8

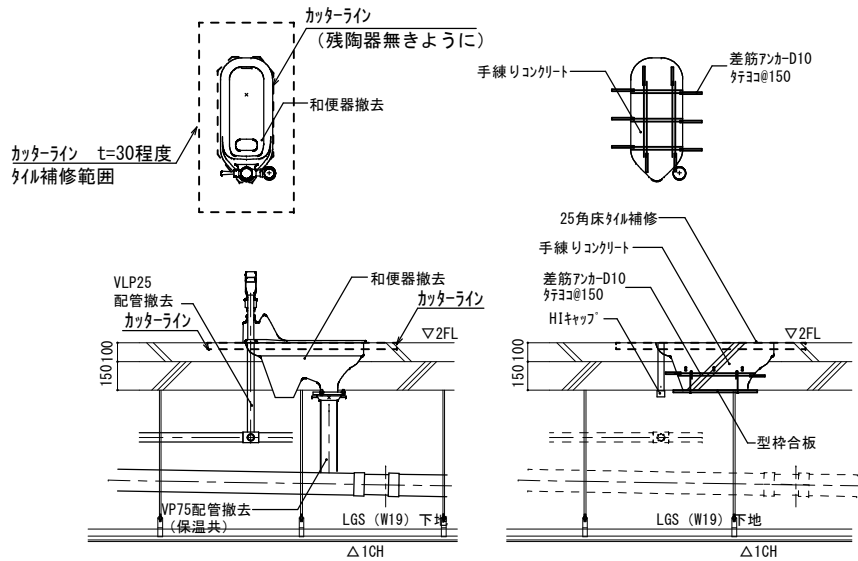


機械設備

記 号	名称	仕様	参考型式(TOTO)	参考型式(LIXIL)
	洋風大便器	リフト&掃除口付きワッシュレット式 普通便座（蓋有り）	CFS498BMCT#NW1, TC301#NW1	BC-P110HW, DQ-PA150CH, CF-49AT 322-1165-630, A-10476
	紙巻器		YH650	CF-AA64

共通	給水管	SGP-VD	継手 (VD) ー 一部 (VB) 露出部は塗装無し、保温なし 既存給水管より分岐、一部保温補修
	排水管	VP	改修箇所は保温なし 廃止の排水管は分岐部でキャップ止め
	便所ブース一部改造		ドアは外開き（常時閉）に変更。開き止めを設置すること。 ドアFIX（引手を撤去し、内側からプレートで固定のこと） 表示付きのカギへ取替えること。 既存ブースを可能な限り利用すること。
	その他		床：既存（湿式）のままのこと。 天井：既存の天井ボード及び照明器具を取外し再取付けのこと。 壁：既存のままのこと。

共通事項

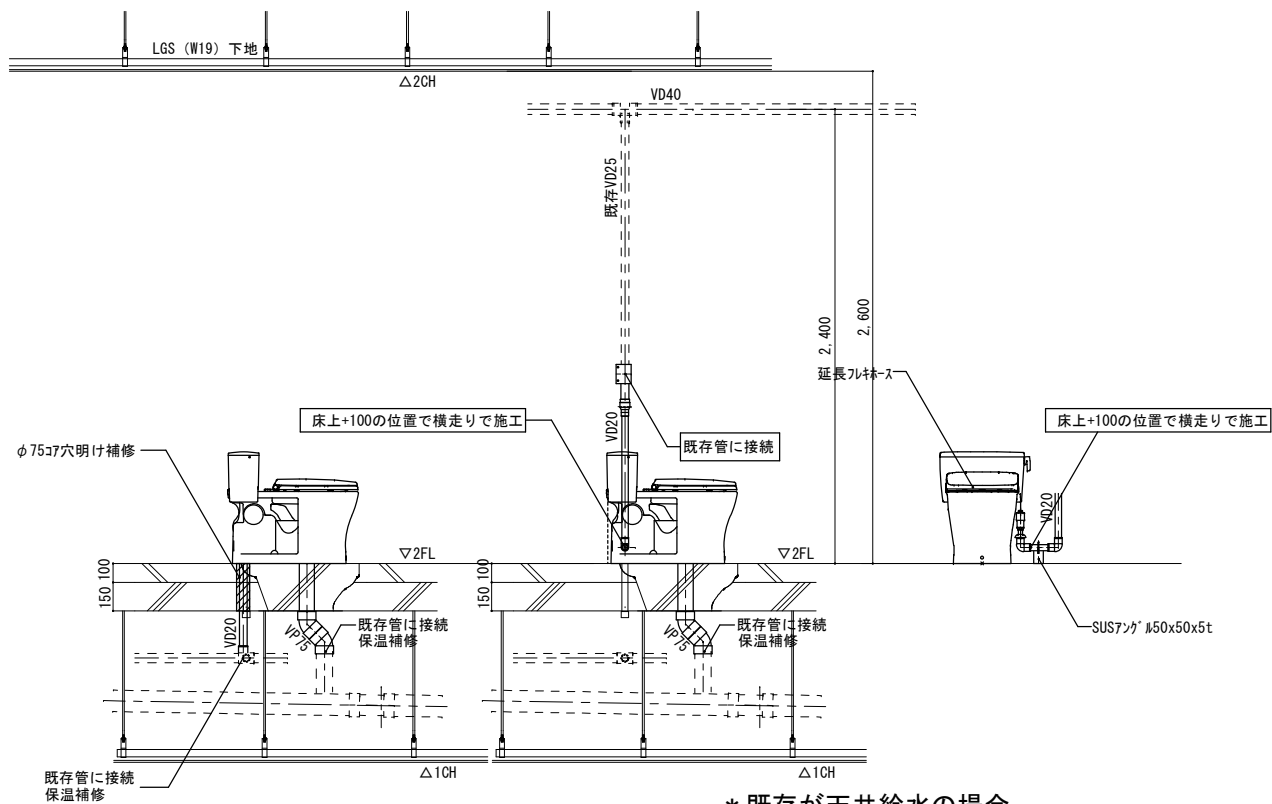


パターン7

パターン8

和便器撤去跡改修要領図

* 下階に天井がある場合



* 既存が天井給水の場合

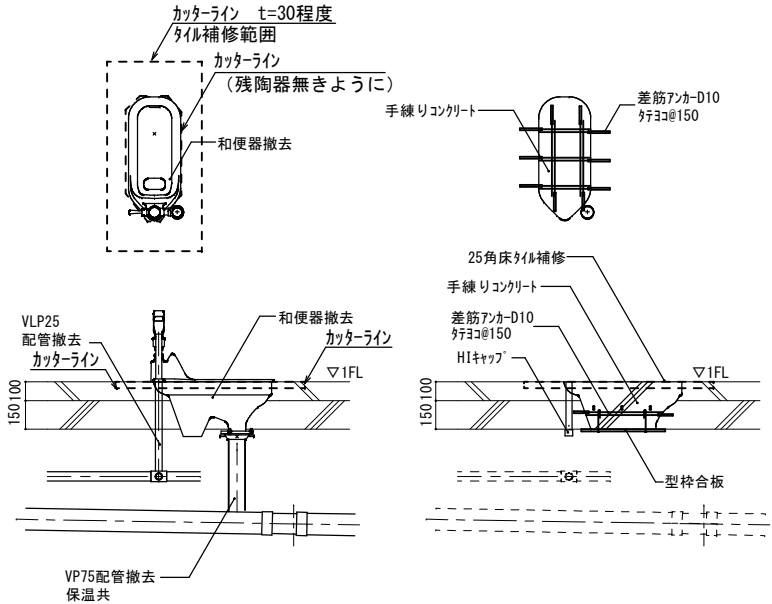
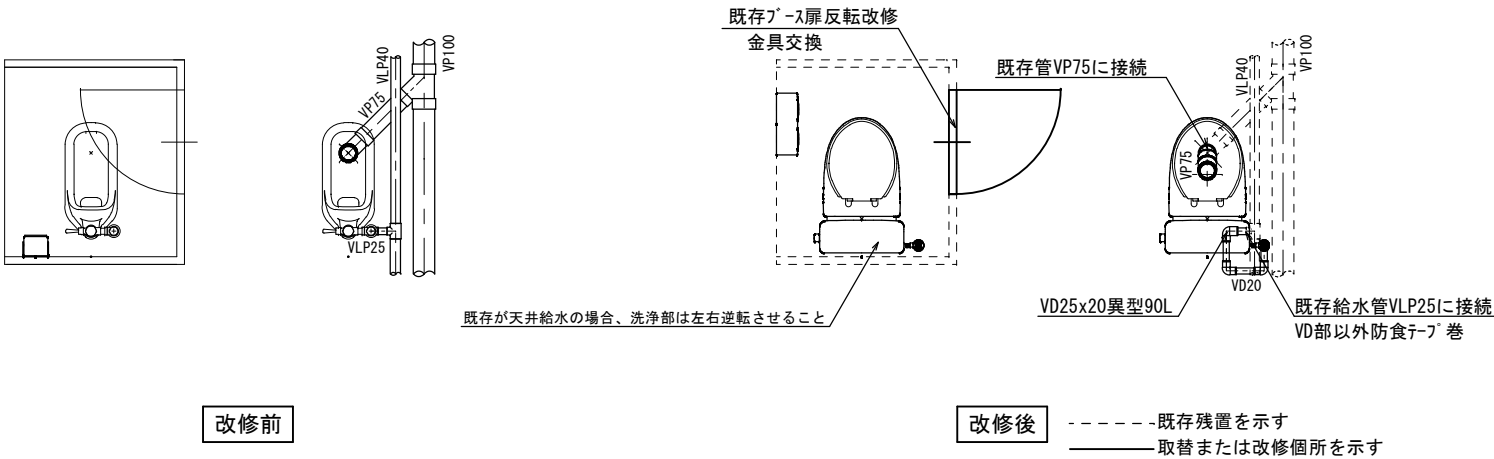
パターン7

パターン 8

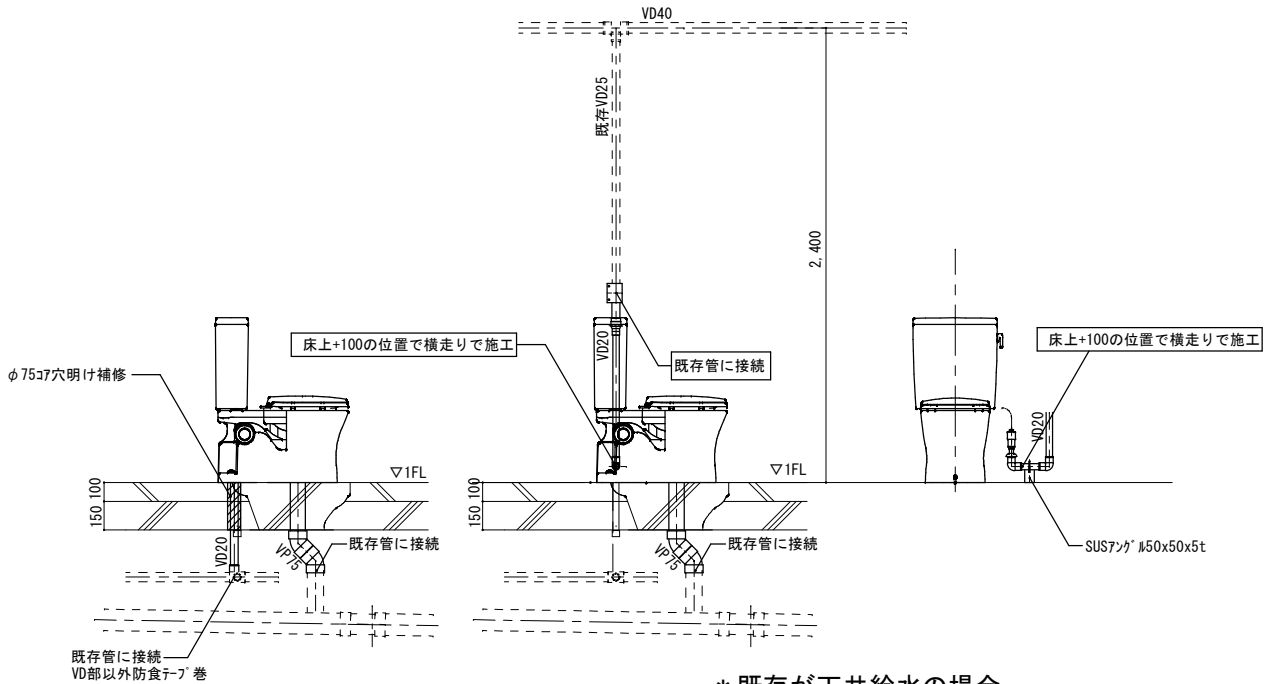
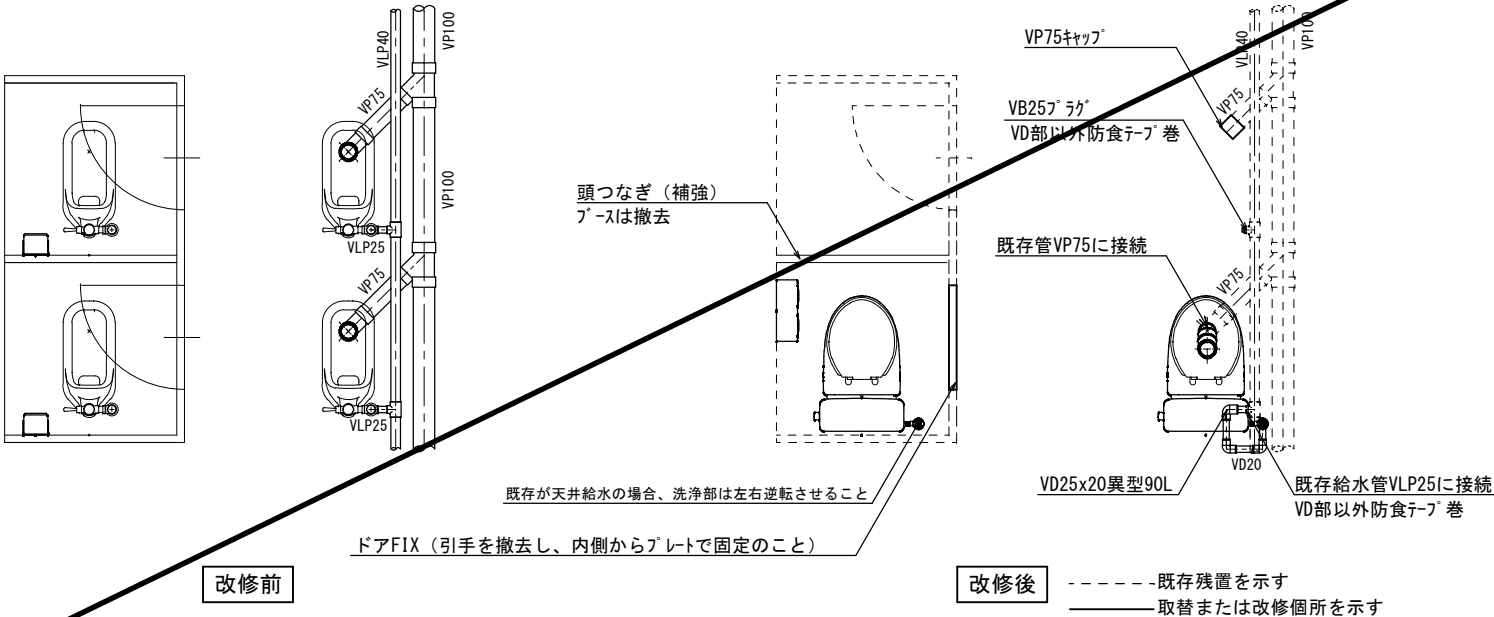
洋便器設置要領図

* 下階に天井がある場合

工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）				N-05				
図面名	便所平面詳細図（床置き洋式） 2階部改修（バタン7、バタン8）				施 期 間	M-05			
岡山市	都市建設部	住宅・建築部	公共施設課	令和8年3月					
課長	課長補佐	係長	課員	担当書	承認		検印	製図	



和便器撤去跡改修要領図



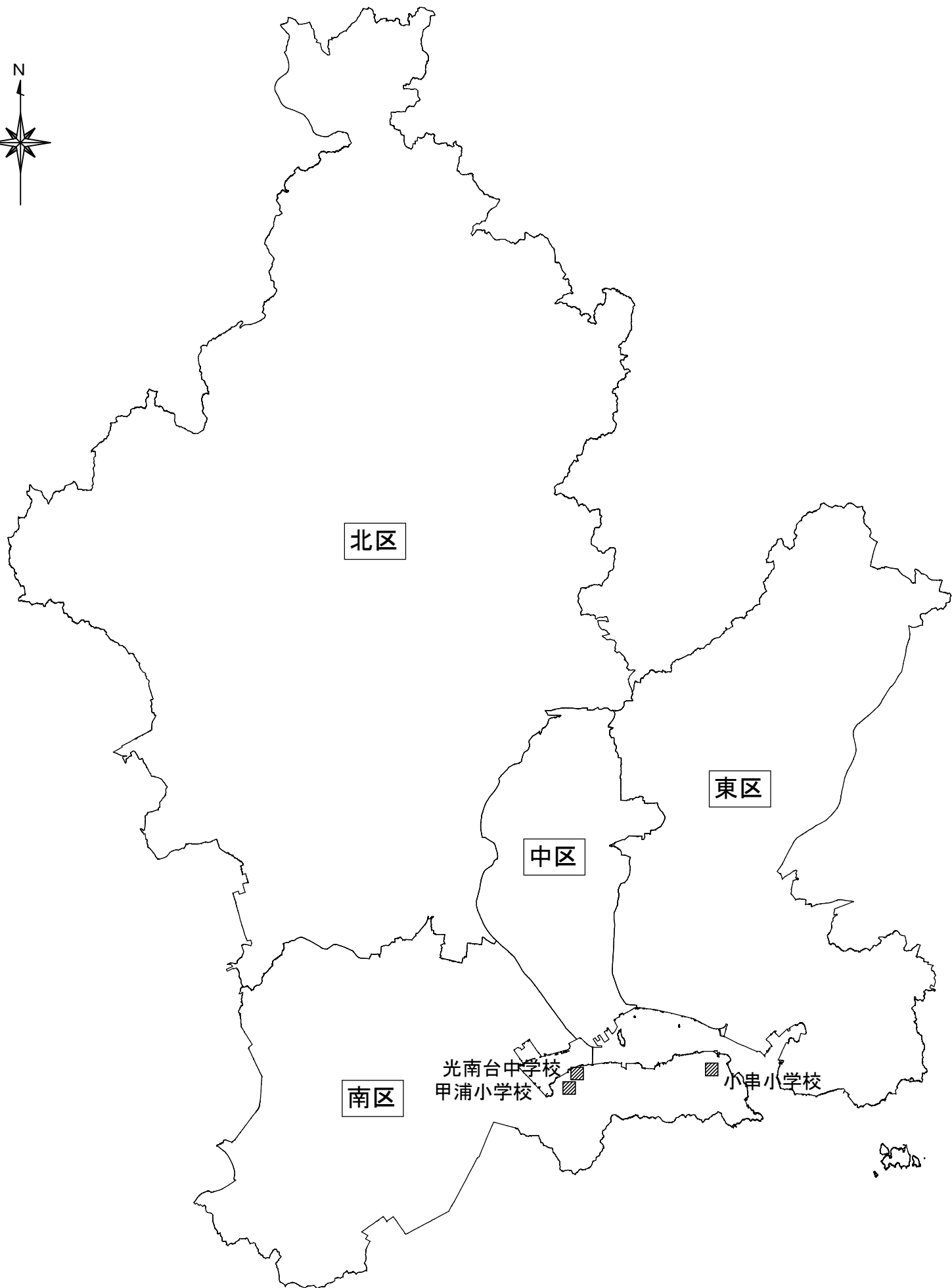
* 既存が天井給水の場合

洋便器設置要領図

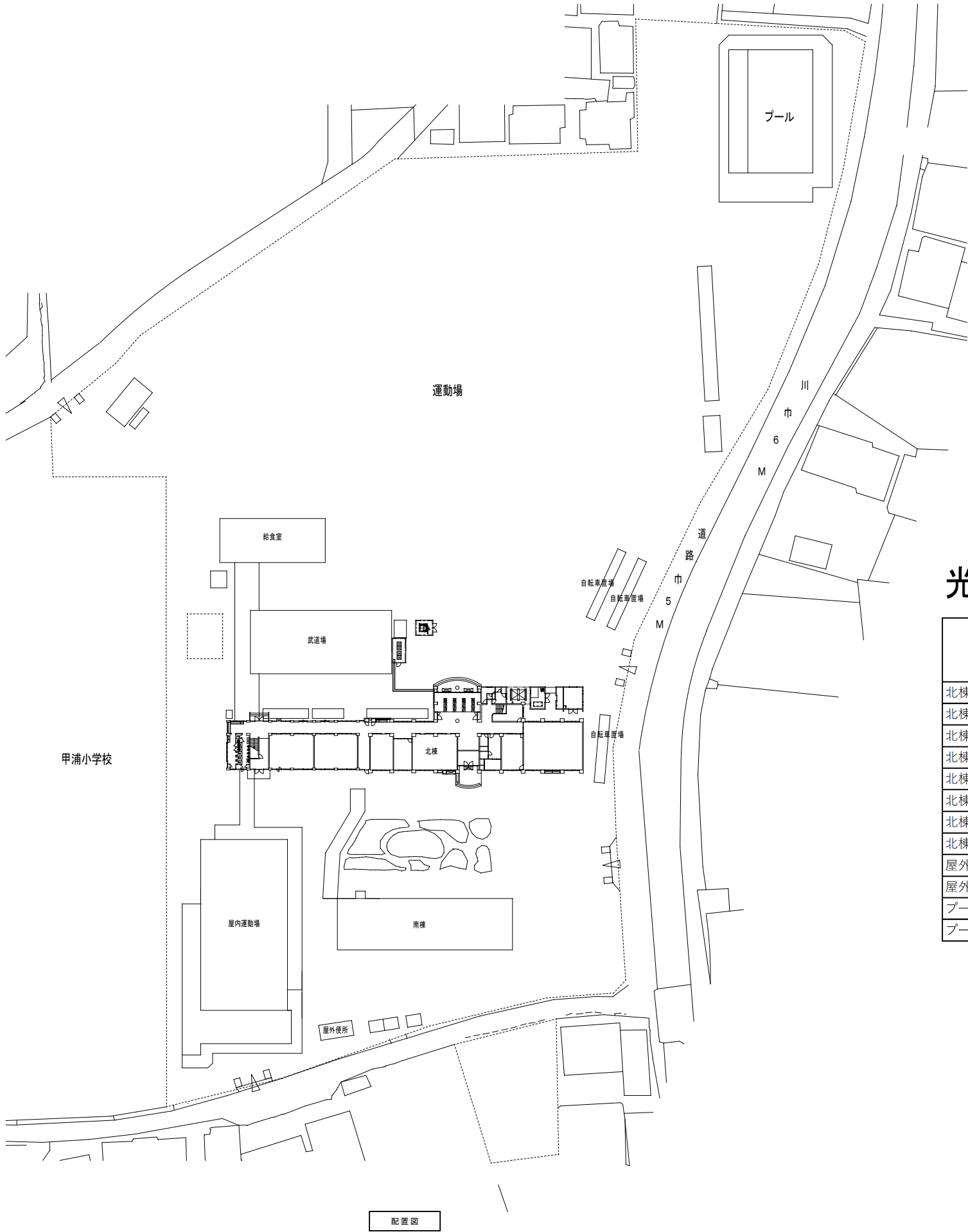
記 号	名称	仕様	参考型式 (TOTO)	参考型式 (LIXIL)
	洋風大便器	リモコン陶器製防露方式、普通便座（蓋有り）	CS597BMCS, SH596BAYR, TC301	BC-P20HUM, DT-PA250HUHCTK, CF-49AT
	紙巻器		YH650	CF-AA64

共通	給水管	SGP-VD	継手 (VD)、ヒツト部・土間部は塗装無し、保温なし
	排水管	VP	既存給水管より分岐、一部保温補修、防食テープ巻
			改修箇所は保温なし
便所ブース一部改造			廃止の排水管は分岐部でキャップ止め
	ドアは外開き（常時閉）に変更。開き止めを設置すること。		
	ドアFIX（引手を撤去し、内側からプレートで固定のこと）		
その他			表示付きのカギへ取替えること。
			既存ブースを可能な限り利用すること。
	床：既存（湿式）のままのこと。		
	天井：既存のままのこと。		
	壁：既存のままのこと。		

工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）				N.○			
図面名	便所平面詳細図（床湿式洋式化） 屋外便所（0'0"×9'0"×1'0"）				縮尺	A1 1/20 A3 1/40	M-06	
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課		令和8年3月			
課長	課長補佐	係長	課員	担当者		承認	検図	製図



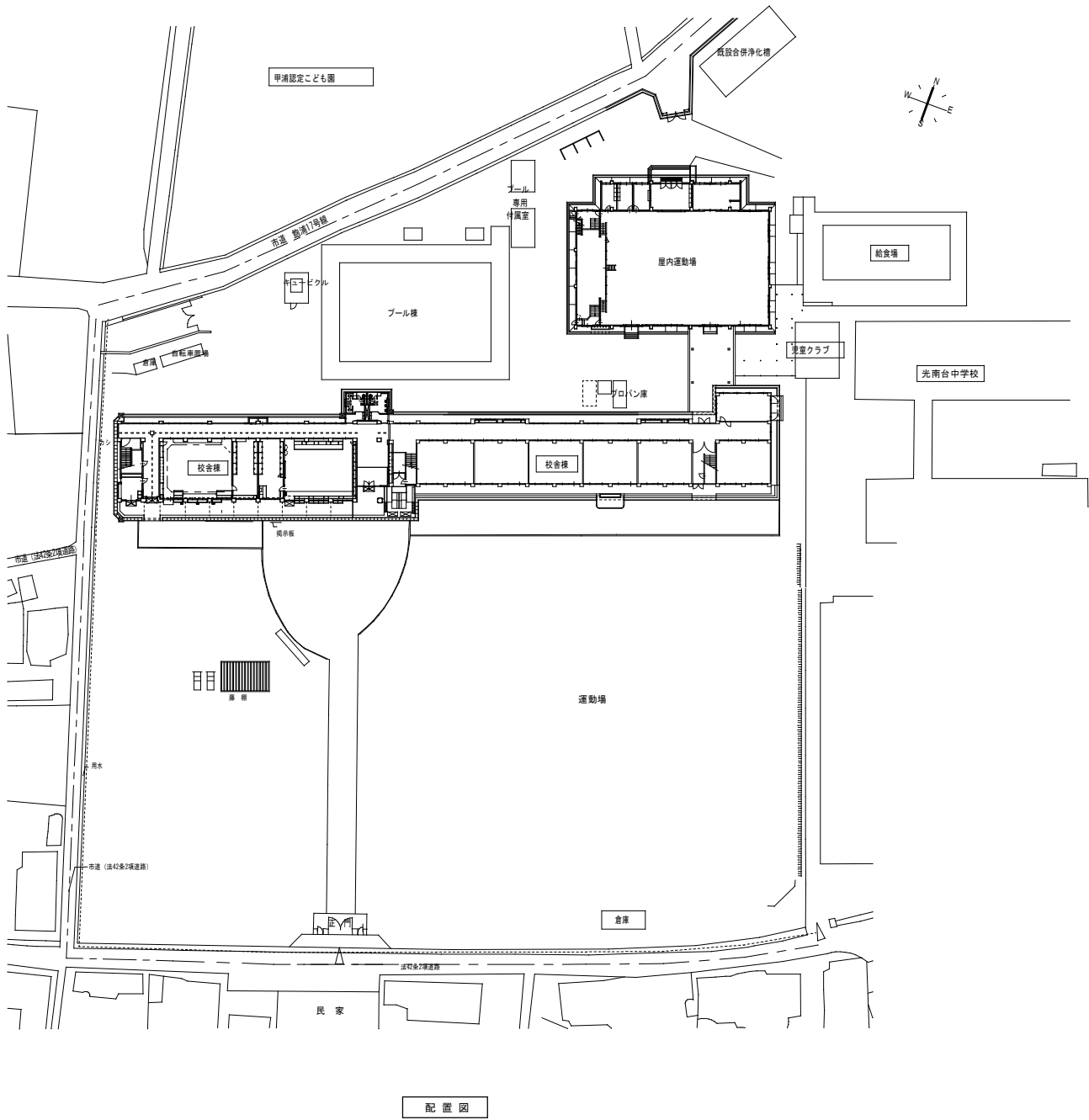
工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）				No.		
図面名	岡山市城図 （光南台中学校、甲浦小学校、小串小学校）			縮尺	M-07		
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和8年3月			
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	検図	製図



光南台中学校

棟名	階	室名	男女 共用	改修箇所数（パターン）										計
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
北棟	1	児童(生徒)便所	男					1						1
北棟	1	児童(生徒)便所	女					3						3
北棟	2	児童(生徒)便所	男			1								1
北棟	2	児童(生徒)便所	女			3								3
北棟	3	児童(生徒)便所	男			1								1
北棟	3	児童(生徒)便所	女			3								3
北棟	1	職員便所	男					1						1
北棟	1	職員便所	女					1						1
屋外便所	1	屋外便所	男									1		1
屋外便所	1	屋外便所	女									2		2
プール	1	外部便所	男									1		1
プール	1	外部便所	女									2		2

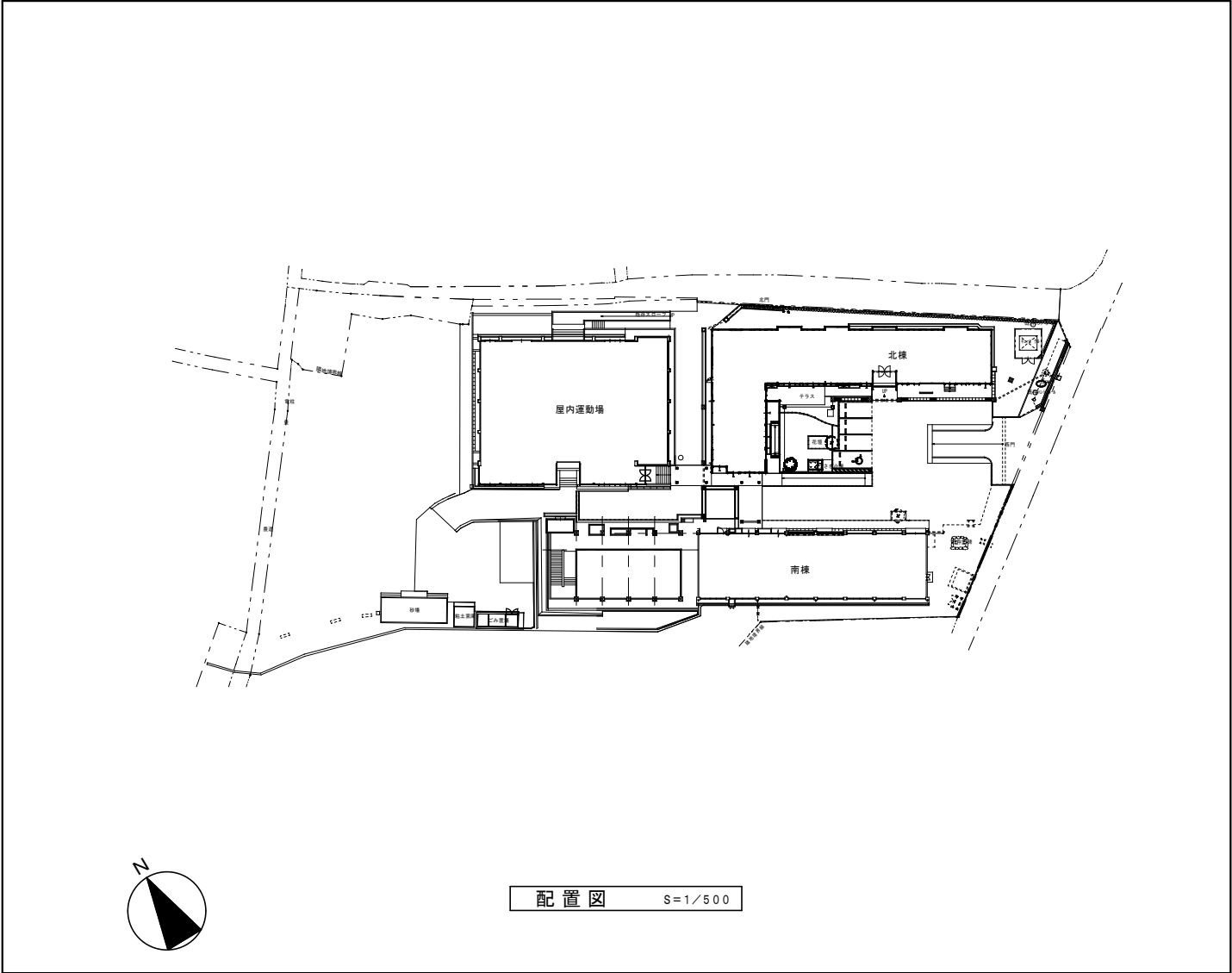
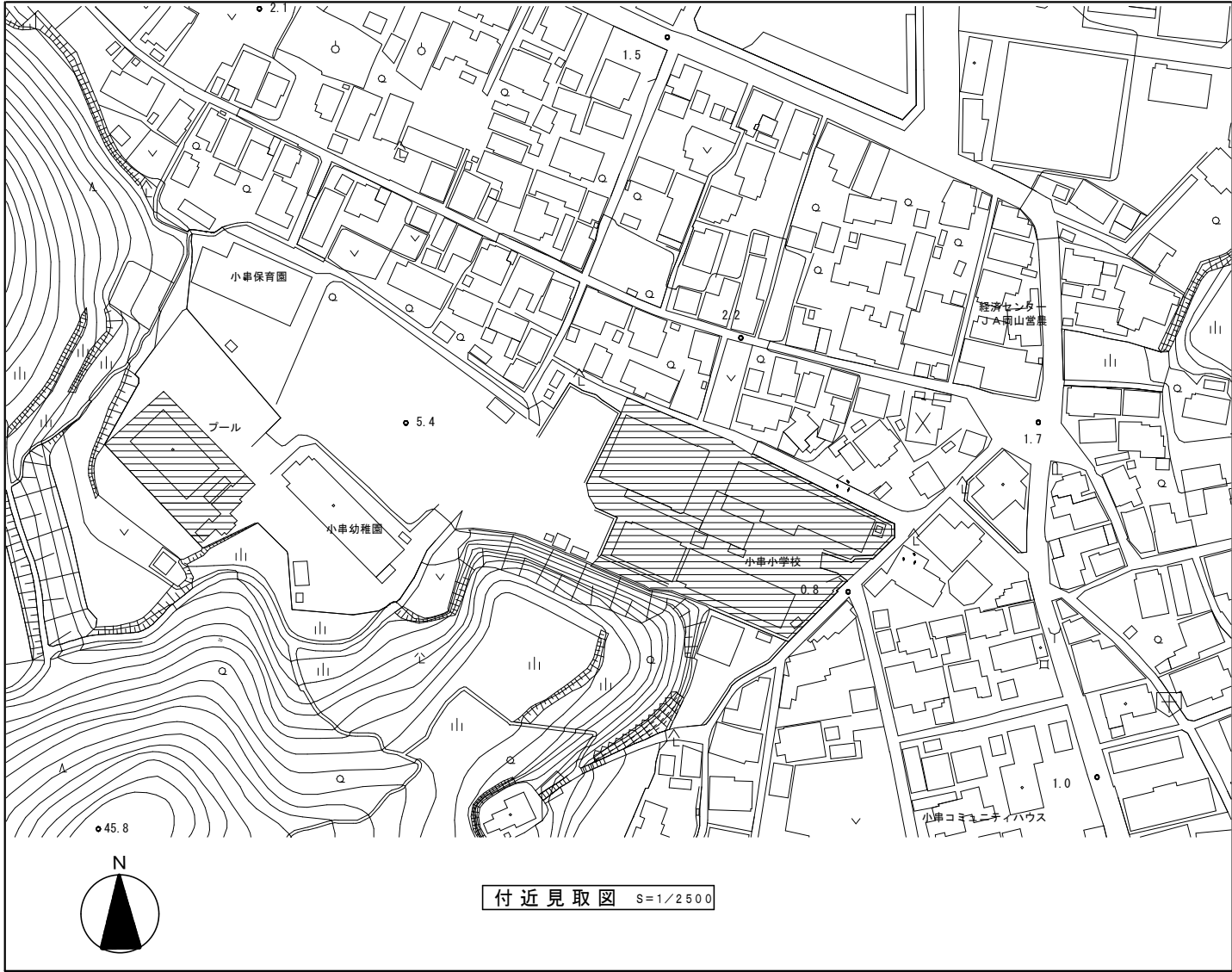
工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）				No.	M-08			
図面名	配置図（光南台中学校）			縮尺					
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	A1 1/500		承認	校図	製図	
				A3 1/1000					
				令和8年3月					
課長	課長補佐	係長	課員	担当					



甲浦小学校

棟名	階	室名	男 女 共用	改修箇所数（パターン）										計
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
校舎棟	2	児童(生徒)便所西	男			1								1
校舎棟	2	児童(生徒)便所西	女			3								3
校舎棟	3	児童(生徒)便所西	男	1										1
校舎棟	3	児童(生徒)便所西	女	3										3
校舎棟	3	児童(生徒)便所東	男			1								1
校舎棟	3	児童(生徒)便所東	女			1	2							3

工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）					No.	
図面名	配置図（甲浦小学校）			縮尺	A1 1/500 A3 1/1000	M-09	
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課	令和8年3月		承認	校図
課長	課長補佐	係長	課員	担当者			



小串小学校

棟名	階	室名	男 女 共用	改修箇所数（パターン）										計
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	
南棟	1	児童(生徒)便所	男					1						1
南棟	1	児童(生徒)便所	女					1						1
プール	1	屋内便所	女									1		1

工事名	岡山市立小中学校便所改修工事（光南台中学校区）				No.		M-10		
図面名	付近見取図、配置図（小串小学校）				縮尺	A1 1/2500,500 A3 1/5000,1000			
岡山市	都市整備局	住宅・建築部	公共建築課		令和8年3月				
課長	課長補佐	係長	課員	担当者	承認	核図	製図		